

創立十周年



大阪府立藤井寺高等学校

10周年記念誌



大阪府立藤井寺高等学校



校歌 作詞作曲 森井久夫

春霞む河内国原
みはるか御陵の森は
万年の歴史を称す
聖なる文化の都市に
輝ける道柄かんと
進みゆく藤井寺高校
一大和川の水清
湯せにわ深まじかと
たくましき健児の力を
發揮す世紀に臨み
育てせに問ひゆゑむ
ここにあり藤井寺高校

教育方針

1. 自他の敬愛と協力によって、平和的な国家及び社会の形成者にふさわしい人格の育成に努める。
2. 真理と正義を愛し、個人の尊厳を重んじる情操豊かな人物の育成に努める。
3. 世界的視野に立ち、知識技術のめまぐるしい変動に対処しうる能力と資質を養う。

校 旗



目 次

校舎正面・校歌	2～3
教育方針・校旗	4
創立10周年を迎えて	5
祝詞・回想	
本校をめぐる風土と歴史	12
学校の沿革	14
学校の全景	16
航空写真・校地校舎配置図	
座談会「思い出を語る」	18
由 来 記	24
校務分掌 “各部のあゆみ”	26
思い出の学校行事	38
10年あれこれ	47
部活動の記録と状況	50
資 料	55
職員在籍異動	60
編 集 後 記	64

創立10周年を迎えて



創立10周年を迎えて

学校長 市橋 平三郎

昭和49年4月1日、第87番目の府立高等学校として開校した本校も、本年をもって満10歳を迎えることになりました。

藤井寺市民総合会館にて第1回入学式が挙行されてより10年、順調な発展をたどって名実ともに学びの殿堂として成長を遂げてまいりましたことは、ひとえに本校創立以来の府当局、PTA、育友会、同窓会、地域の皆様方のあたたかい御指導、御援助のおかげであります。ここに衷心より感謝申し上げる次第であります。

本校の位置する藤井寺市は、太古の昔から集落として開け、先縄文文化時代から栄えた河内文化の発祥地であり、幸いにも今なお豊かな情意の育まれている土地柄であります。創立にあたって初代校長森田敏夫先生は、この豊かな情意を大切に育み育てつつ、地域社会に根ざした、知・徳・体の調和のとれた人格の育成を目標に掲げられ、校章の制定など本校の進むべき道を示されました。

本校の教育方針には、この基盤の上に、「自他の敬愛と協力」「真理と正義を愛する」「個人の尊厳を重んじる」等、人間性溢れる情操豊かな人格の育成が謳われております。

今や世の中は日に新たに月に進み、社会情勢、世界情勢の変化また激しく、科学の進歩もきわめて急なるものがあります。かかる時代に自己実現を図っていく為には、たくましい体力と不断の努力により、知識・技術のめまぐるしい変動に広い視野をもって対処し得る能力と資質の涵養がぜひとも必要であり、併せて本校教育方針の一つとされているところであります。

爾来10年は本校の基礎固めの時期であり、決して坦々たる道ではありませんでしたが、教職員始めPTAの方々の一致協力により、幾多の苦節をのりこえた創業の精神は、しっかりと根を張って今や清新なる本校の校風を形成しつつあります。

この精神のもと、本校で学を修め業を磨いて本校を卒立った者 3,776名、今や社会の推進力として各方面に活躍しておられることは、まことに喜ばしいことであり、改めて本校をここまで育てていただいた先人達の御労苦に心から敬意を表するものであります。

事業の如何を問わず、10年という歳月は一つの節目であります。この意義ある節に当り、「故きを温ねて新しきを知る」故事に学び、単なる回顧に流れず、自らを振り返り、新しき未来への基盤として、ここに記念誌の発刊をみましたことはまことに意義あることであります。これを契機として本校もあらためて創業の初心に思いを致し、10年間に培われた力量とよき伝統を踏まえて、次代を担う人材の育成を目指し、本校教育内容の充実発展を期すべく、教職員、生徒一体となってより一層の努力を重ねてまいりたいと存ずるものであります。

あらためて本校をここまで育てていただいた諸先輩の御労苦に対し、衷心より感謝を申し上げると共に、今後の本校発展のため、なお一層の御協力、御鞭撻をお願いするものであります。

創立10周年を迎えて



10年史発刊を祝って

PTA会長 杉 本 邦 男

わが藤井寺高校が、昭和49年4月、河内文化の発祥地藤井寺市に府立高校の新設校としてうぶ声をあげてより、満10年を迎えたことは皆々様と共にお祝い申し上げます。10年といえば、人間

でいう少年期であり、青年期へと大いに飛躍し将来に向って前進発展すべき記念の年であります。

本校は、よき教育環境に恵まれた府立高校にあって、広く開けた明るい田園の中に近代的な偉容である白い校舎、広い運動場はまさに本校の輝かしい教育の一つのシンボルでもあります。校章の由来も河内文化の藤井寺市を示し、大和朝時代に築造された前方後円墳を形取り、「高」の字を入れて本校の躍進発展を象徴しています。

10年の歴史は短いように思えますが、開校当時、初代森田校長が定められた教育方針、校歌など歴代校長、教職員によって伝統と栄光をめざすがために継承され、今日に至っていると言っても過言ではないかと思います。その陰には、地域住民のご協力を忘れてはなりません。基礎工事の杭打の音がとどろく中、田畠の真中にすばらしい校舎、プール、体育館がやつぎばやに出来、立派な通学路も出来ました。このように新設を願う父母の皆様の要望を担って本校が出来ました。ちなみに本校の沿革概要是開校当時に第一期工事が竣工し、引き続き第二期第三期工事へと拡大され、50年6月に体育館プールが竣工し、51年2月にすべての完成をみたわけであります。この間、建設工事の騒音などで、通学するにも生徒達は大変だったように思います。校内授業や体育活動も容易でなかったことも考察いたします。初代校長、諸先生方のご苦労はみなみならぬものであります。またPTA活動におきましても、初代会長はじめ役員の方々のご苦労も忘れることが出来ません。そのほか新設校のため、学校設備の不足を少しでもおぎなうために体育文化活動にご尽力いただきました余暇活動の皆様方の活躍もみのがすことが出来ません。本校にとっては基盤を築かれた苦しい時代でもありました。

その後、本校は激動から安定へと年輪を重ね、歴代校長会長の手によって、充実し成長してまいりました。生徒達の資質も向上いたしました。7学区でも急成長をとげることが出来ました。卒業生も今春7期生が巣立ち、校風も人気の藤高から実力の藤高へと世論の声が高まりつつあります。さらに、進路指導計画も充実され進学率も高まり就職内容も他校をリードしています。また学校行事にいたしましても藤高フェスティバルを中心に、クラブ活動校外研修等にも積極的に参加するようになり、対外的にも実をむすんでいます。

この記念すべき10周年に際し、同窓会・育友会・PTAそして学校が一体となって記念誌の発行や記念式典を計画してきたわけですが、このたび、皆様方の絶大なる御支援により記念式典と日を一にして記念誌を発刊するに至りました。

在校生諸君、本校の教職員をはじめとする関係者や諸君の先輩達が開校当時より苦難を乗りこえ本校を守り、その発展をはかるがため、どのように力を尽してきたかを学んでください。

最後に、この記念誌発刊において、御協力いただきました各位に、深い感謝の意を表しますと共に、今後いっそう私共の連帯の絆を強くして、藤井寺高校発展のため尽力することをお誓い申し上げまして、記念誌発刊のお祝いの言葉といたします。

祝詞

創立10周年を祝って

回想

歴代校長



初代校長
森田 敏夫

昭和48年11月1日、府立清水谷高等学校の教頭でありました私が新設藤井寺高等学校の校長の内示を受けて最初の休日、文化のことです。学校の所在地と附近の環境の視察を目的に自宅を8時に出発、藤井寺駅に到着したのが午前9時40分、北へ3キロの大和川の堤防下との情報を頼りに徒歩で北進30分、大正橋の橋上に立って周囲を見廻したが、校舎らしいものは全く見当らず堤防上を西へ、倉庫らしい大きな建物が堤防下にありましたついに校舎らしい建物は発見できずじまいでした。実は高速道路に視界を遮断されていたわけですが、当時はまだ普通教室の一部の鉄骨が組まれていただけだったのでした。

私が初めて校舎に対面したのは昭和49年の1月1日、他の新設11校の校長さん達と正式に辞令交付を受け、設立準備のため、校長、教頭、事務長3人1組30名が準備室入りして間もなしの11日のことです。

当時まだ並通教室棟は外装中で、3月中旬完成はどう考えても不可能と考えられる進捗状況だったのでした。そのうち、入学試験場は藤井寺工業高校と決まりましたが、4月8日の入学式はとても校舎で挙行は不可能と判断して、2月のうちに、藤井寺市の市民会館の大ホールで入学式を挙行することを市当局から承諾して載きましたが、3月下旬に至っても電線が引き込まれていません。府教委の当

事者によると電柱（高速道路の下側を大正橋から引き込むとのことでしたが）の立て場が地主さんから了解されていないとのこと。大慌てで藤井寺市にお願いして、地主さんにお許しを載き、電線の引き込み完了が4月3日、この日までに教室の内装は完了しましたが机は1脚も搬入されていない有様。4月5日午後5時頃机運搬のトラックがやっと到着したものの前日来の降雨で教室棟の手前で車がエンコし、校舎内への搬入がこれまた大変な難作業となりました。私と事務長さん、用務員さん、運転手、府教委の職員など数名が板を敷きつめた搬入路を窓越しに一脚一脚廊下まで搬び入れた600脚は忘れられない思い出でございます。

私が退任してから満6年、教職員と生徒、PTAの方々の並々ならぬご努力が現在の藤井寺高等学校を創造したのであります。学校の益々発展することを祈りつつ思い出の筆をおきます。

2代校長故土井善博先生に代って当時の教頭の村田義人先生よりご寄稿



3代教頭
村田 義人
(現・府立北野高校校長)

われわれの藤井寺高校がきわめて順調な発展成長をとげ、晴れて創立10周年を迎えることのできたことを大変嬉しく思います。私の在任中もよく他校の管理職から「藤高はいいね」と羨ましがられたのですが、どんないい学校でも、学校という所は時に全く思いもかけぬことが起る所でありまして、赴任後1

創立10周年を迎えて

年もたたぬ昭和55年2月28日に、第2代土井善博校長がスキー研修旅行に2年生を志賀高原に引率中、心筋梗塞で亡くなられるという全く予想もできない大事故が起り、留守役の教頭であった私が暫らく校長代行を命じられました。

これは学校にとっても私にとっても全く大変なことでしたが、「今は戦場なのだ。隊長を失った部隊の、お前は副官なのだ」と私は何度も自分に言い聞かせました。現地の学年主任からは予定を切り上げて帰校したい旨の要請がありましたが、生徒の事故ならともかく、そうではないのだから、予定通り実施することが亡き校長の遺志にもそうのだと、スキー研修の続行を指示したもののもしその間に何かの事故が起きたら、何とも申しわけのないことになると非常に気がかりで、3月2日の午前6時に全員が無事藤井寺駅前に着いてくれた時には思わず涙が出るほどでした。付添の先生はこの日、極端な疲労にもかかわらず、千早赤坂駅で行われた告別式に参列、とにかく、2月の末から3月26日の学校葬まで、年度末の成績処理や入試などの激務に加わる、今までにしたこともない、それこそいろいろなむずかしい仕事を、PTAや同窓会等の方々も含めて、みんなほんとによくやって下さったと思います。当時を思い出し、ご苦労頂いた皆さんに改めて感謝申し上げるとともに、危機というものが、お互の人間理解を深め、人をして一所懸命の働きに導くものであることをしみじみと感じます。

今は亡き、やさしくスマートで男らしく、果断の人だった土井先生のご冥福を祈ります。



3代校長
山田 忠雄
(現・府立農芸高校校長)

藤井寺高等学校創立10周年おめでとうございます。

諸先生方、PTAの方々、関係当局の御尽力、そして生徒の皆さん、たゆまぬ努力によって藤井寺高校が、このように成長し、さらに次代に向かって飛躍する基礎を固め、喜びの日を迎えられたことを、大変嬉しく、心からお祝い申し上げます。

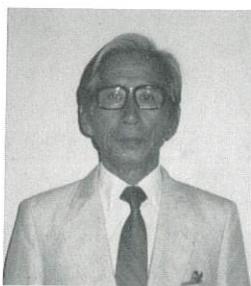
二代校長、故土井善博先生の不慮の御事態に際し、私が校長の内示をお受けしましたのは、昭和55年3月5日のことでした。ちょうど、創立7年目に当たり、校舎・体育館・プールなどの諸施設も着々と整備充実し1680余名の生徒と、その保護者の方々、80余名の教職員らが、一体となって清新な校風を培っている最中がありました。

開校当初からの山積した問題も、一朝一夕に解決の道が開けたのではなく、関係各位の相互協調によって漸次、良い方向付けがなされたものと確信します。自他の敬愛と協力による平和的社會の形成・真理と正義を愛する情操豊かな人格の育成・世界的視野に立脚した最新知識技術導入への対応能力、これら創設以来の教育方針を一人一人が、あらゆる機会をとらえて実践した結果、幾多の辛苦・風雪に耐えて、はじめて“馥郁”と香る高雅な花のごとく、現在の藤井寺高校が開花したと思います。

今日、在校生諸君は、各人の行動に責任を持ち、生活面での安定が見受けられます。今後、諸君らが、より高い目標を達成し、名実ともに、ゆるぎない藤井寺高校の建設に寄与されますよう願ってやみません。

10周年を機に、先人達の努力の軌跡を、ふり返り、次の光輝ある20周年記念の日を目指し、生徒、御家庭、全教職員が心を一つにして、明日の藤井寺高校発展の出発点としての新鮮な第一歩を、大きく踏み出されることを切望して、お祝いの詞といたします。

歴代PTA会長



初代会長
山本 義一

大阪府立藤井寺高等学校創立10周年をお祝い申し上げます。

今年の3月頃、私が時々通る大和高田線松原に建築現場事務所のようなプレハブが建っていました。しばらくしてそこを通りますと、府立××高校と書かれた看板が出ているではありませんか。私はびっくりしました。そして10年前の藤井寺高校のことを思い出しました。“新設高校だから最初は止むをえない”で済むのでしょうか。昭和49年の藤井寺高校の開校もまさにその通りでした。鉄筋コンクリート4階建の校舎が唯一棟。通学路はあぜ道。もちろん、運動場も自転車置場もありません。文字通り「広野の一棟」でした。そのような環境を諸先生方、生徒諸君、父兄が、なんとかして少しでも良くしていこうと環境整備に知恵を出し合い、汗を流しました。生活指導の先生の御労力、第一期生が卒業する時の進路指導の先生の御苦労を、私達は決して忘れてはいません。

先日、10周年記念打合せの為、学校を久しぶりに訪れました。そこには広々としたグラウンド、テニスコート、整備された自転車置場そして舗装された通学路があり、これが10年前のあの藤井寺高校かと思われる程でしたが毎年の入学希望者も第七学区では、常にトップであると聞いています。20周年、30周年には、府下No1の高校になることでしょう。私達第一期PTAの運営に關係した者としまして、このような充実した現在の藤井寺高校に育てあげて下さった諸先生方、各期のPTA

役員委員会の方々に深く感謝申し上げるものであります。

「教育」これこそは、将来の日本の運命を左右します。今こそ私達は、この「教育」の重要性を認識しなければならないときではないでしょうか。

最後に、いよいよ藤井寺高校の発展を祈って、お祝いのことばと致します。



2代会長
辻 本 義一

創立10周年を心からお祝い申し上げます。収容力の低い第七学区、収容率で調整校への進学より収容力をもった学校建設が先決だと、其の当時府会議員(現市長堀端宏)、市議会議員、諸先輩、市立学校園連P役員、藤中・道中PTA役員の方々と、大阪府教育委員会への要望、陳情、種々な交渉によって、学校建設が確定した。建築は年次進行で完備していくとのこと、地元藤井寺高校育成のために市内の優秀な中学生をより多く送れとの合言葉で、中学校では進学親子懇談会をたびたびもたれ、新設校へは優秀な先生方がご赴任されるからと、各父兄も心配なしに受験をすすめたものでした。幸い私の娘も第二期生としてお世話になったのです。しかし当時PTAは環境整備を最重点課題とし、特に第一期生のご父兄には筆舌に盡し得ない諸問題と取組まれ種々解決、整備に励まれたと、第二期目のPTA役員総会にも発表されており、私も前会長の意志を継ぎ、又PTA会員の絶大なご協力を得まして、恙がなく大任を果させて頂いたのです。年次進行の中で生徒諸君も勉学に励まれ、優秀な成績で名門校へと進学、現在では立派な社会人として多方面で活

創立10周年を迎えて

躍されていると聞いています。いつの時代でも精神力、忍耐、努力、これが立証されたよう思います。こんなすばらしい立派な学校にして頂いたのも、諸先生をはじめ、大阪府教育委員会、藤井寺市役所の行届いたご配慮のお陰だと深く感謝致すと共に、今後ますますのご発展を祈念致しまして、10周年のお祝の言葉と致します。



3代会長
廣嶋昭三郎

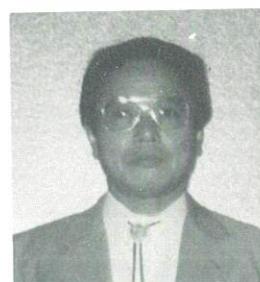
大阪府立藤井寺高等学校創立10周年おめでとうございます。私が会長をお引受した当時はすでに5年目を迎え、学校設備も整い他校にも劣らず立派になっておりました。これも歴代会長及び会員の皆様がたの努力のおかげと深く感謝しております。今後は中身の充実した立派な学校にするのが私達の責任と思い会長に就任したわけですが、いざそうなると気ばかりがあせり、なにも出来ずに3年間が過ぎ去り、何のお役にも立てなかつたことを深く反省しております。思い出す事は5期生のスキー研修中に土井校長先生が予期せぬ事故で不帰の客となられた事です。心からご冥福をお祈りすると共に、追悼式が学校で営まれた節には会員OB会の皆様の多大なるご協力に厚く御礼申し上げます。卒業生も立派に活躍され、これを契機として尚一層立派な学校になすべくご尽力を心からお祈りして10周年のお祝いのことばとします。



4代会長
辻本 肇

藤井寺高校創立10周年を迎えるにあたり、皆様方と共にお慶び申し上げます。昭和49年は丁度私が地元道明寺南小学校でPTA会長の時でしたが、歴史的に大変古い藤井寺市に初めて普通高校が開設された喜びと期待は非常なもので、地域を挙げて地元校育成を誓いあってから早や10年の歳月がたちました。

私が広島前会長より引きつぎました昭和56年度には、学校の施設、教育の条件も整い、自由で伸びのびとした校風も固まり、PTA活動もすっかり軌道にのってまいりました。これまでの成長の陰には多くの方々の努力とお力がよせられた事を忘れる事は出来ません。このよき伝統をひきつぎ、次への飛躍の年にしたいとよく話し合ったものでした。「ローマは一日にして成らず」の言葉がございますが、一歩一歩地道に、より良き学校に成長してほしいと思います。10周年を祝すると共にこれを契機といたしまして、今後なお一層のご発展を心より祈念いたします。



5代会長
高田昌亮

学校創立10周年を迎えられ、心から御祝い申し上げます。私の子供が二人も当校に御世話になり、何かお役にたたなければと、昭和55年にPTAの役員をお受け致し、昭和57年

創立10周年を迎えて

は、府下第七ブロックの当番校として、また府立高校PTA協議会副会長というおまけ付きの年度がありました。英語による意志伝達の基礎能力と国際感覚を身につける為にと、英国人英語指導教員が、大阪府に四人しか派遣されなかつたにもかかわらず、常駐教員としてクルックス先生を迎え、校内は全く安定し、校外での評判も年々上昇の一途をたどりまさに躍進の年であったと思います。これもひとえに歴代の校長先生を始め諸先生方の心のこもった御指導と、各期の生徒諸君の頑張り、そしてPTA及び地域社会の方々のなみなみならぬ御努力のお陰だと思います。この10周年を機に、将来の名門校を目指して益々の躍進を期待いたします。尚記念事業準備関係者の皆様には厚く御礼申し上げます。

事務関係

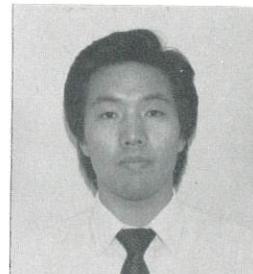


初代事務長
斎藤 博
(現・府立富田林
養護学校事務長)

昭和49年4月、藤井寺市民会館を借りて第1回入学式が挙行されました日は、朝から風雨の強い日であったことが思い出されます。あれから早や10年、創立10周年誌を発刊せられるに当り、心から喜びと感謝の意を表するものであります。思えば準備室勤務を命ぜられた当時は、鉄柱3～5本立っていただけで非常な不安を覚えたものでしたが、教育委員会を始め、森田校長先生、地元の方々の非常な御協力により漸く開校に間に合いました。また、藤井寺工業高校で入試事務等準備の御世話になり、当時の山田事務長さんには側面からのほんとに親切な御援助を賜わったことは有難いことでした。今にして思えば、開校

当時の苦しかった事、楽しかった事の思い出が走馬燈のように浮かんで参りまして非常に懐しく感じております。藤井寺高校の今後の益々の御発展を祈りますとともに、土地提供者の方々、建設会社の方々、並びにPTA初代山本会長さん始め歴代PTA会長・役員の方々に心から御礼を申しあげてお祝いのことばといたします。

同窓会関係



同窓会会長
若林 和博

同窓会を代表して御喜びを申し上げます。「十年一昔」と言われますように、高校時代通り慣れていた道を、今、通ってみると、昔の面影を残しているものは少なく、その変り様と新しさに驚くばかりです。しかし、体育館、プールもなく、教室も半数近くしかなかった頃とは見違えるほどに変ってしまった高校でも、尋ねてみるとたいへん懐しく、高校時代の事を思い出します。高校時代を楽しむことは、人間の力では操ることのできない「時」を、「場所」を変えることによってその「時」を支配したかのような錯覚さえ覚えます。私と同様多くの卒業生の方々もそのように楽しんでおられると思います。このように私達卒業生にとって藤井寺高校は、若き掛け替えのない日々を過ごした「母なる高校」であり、発展と活躍の中で10周年を迎えたことに本当に喜びを感じます。

これから益々の発展を期待し、卒業生として見守っていきたいと思います。

本校をめぐる風土と歴史

＜本校周辺の展望＞

(東)

二上山
↓

葛城山
↓

金剛山
↓

藤井寺球場
↓

(南)

雄略陵
↓



▲ 古き時代が偲ばれる東部・南部

風土と歴史

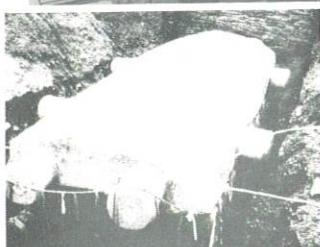
本校の所在地である藤井寺市は、大阪府の南東部、南河内の一角落を占める大阪市の衛星都市の一つである。南は羽曳野市、西は松原市、それに東は石川、北は大和川に囲まれた地域である。本校は藤井寺市と松原、羽曳野の3市の境界が集まるあたりに立地している。

藤井寺市は、本校創立の年、昭和49年の人口が5万7千人、昭和53年の人口が6万5千人のこじんまりとした都市であるが、近鉄藤井寺駅周辺に見られるように、この10年間に著しい変貌をとげている。本校周辺は、市街化調整区域となっており、田圃の中に大きな校舎が目立っているが、区域の境界いっぱいまで住宅地がおしよせつつある。

藤井寺市は、近年では近鉄バファローズの本拠地、藤井寺球場の所在地としても知られるが、本市を含む地域一帯は、豊かな歴史的文化財にめぐまれた地域として知ら



▲ 本校上空より
東部を望む



◆ 城山古墳出土の
長持形石棺

▼ 近代化が進む北部

(北)

生駒山
↓



本校をめぐる風土と歴史



▲ 重文住宅吉村邸

▶ 葛井寺



れている。

市内の国府遺跡は新石器時代以来の複合遺跡で、日本史の教科書にとりあげられる重要な遺跡である。本市の東部から羽曳野市にかけては、古市古墳群とよばれ、応神天皇陵をはじめ、我国でも有数の巨大前方後円墳の集中する地域であり、本校からも城山古墳、雄略天皇陵などを間近に望むことができる。市域の北部には条里遺構が今もあざやかに残っており、本校の校地もその一角を占めている。

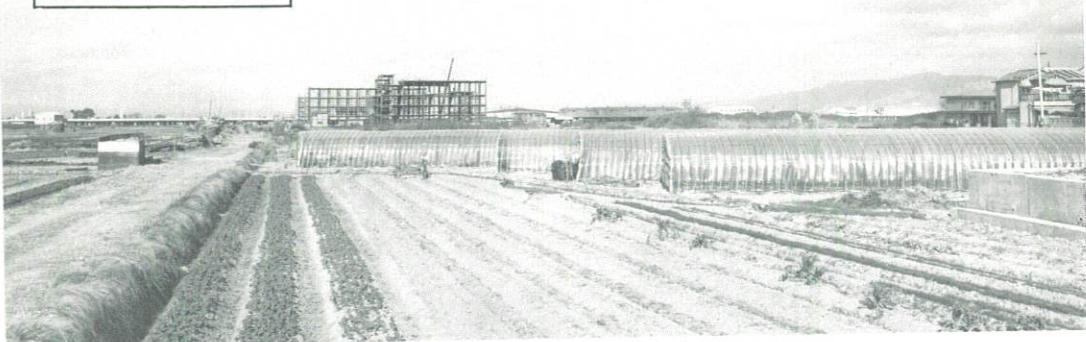
本市の名のもとである藤（葛）井寺は、古代の藤井氏の氏寺であり、国宝千手觀音で知られ、西国五番の靈場としても多くの参拝者を集めている。また道明寺天満宮は、菅原道真ととくに縁が深い古社である。

本校の南西徒歩10分ばかりの羽曳野市島泉には代表的な近世民家として知られる吉村邸がある。本校の北を流れる大和川は、江戸時代の宝永元年、中河内地方を洪水から守るために、柏原から堺にかけ、新たに築かれたものである。



学校の沿革

沿革の概要



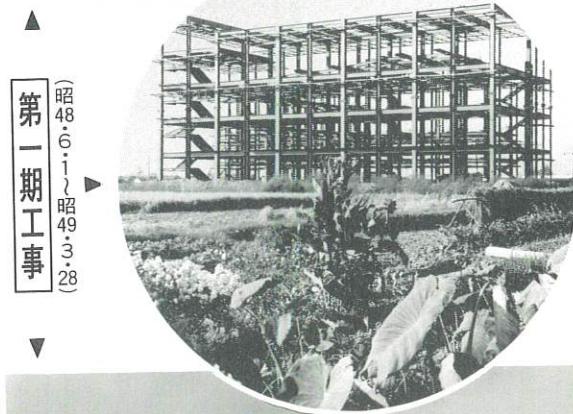
大阪府立 藤井寺高等学校

1、歴代の校長

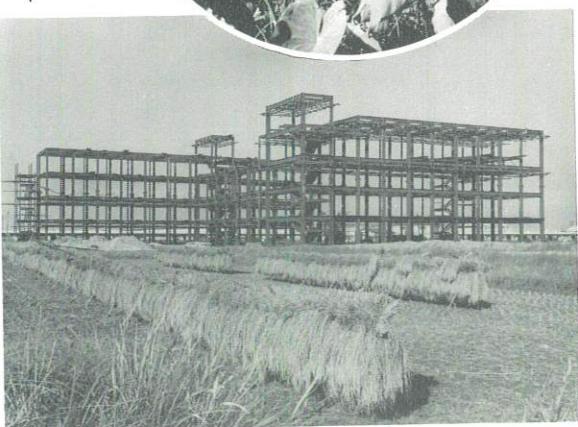
初代 森田 敏夫	昭和49年1月1日から 昭和52年3月31日
二代 土井 善博	昭和52年4月1日から 昭和55年2月27日
三代 山田 忠雄	昭和55年3月8日から 昭和58年3月31日
四代 市橋平三郎	昭和58年4月1日から 現在に至る

2、沿革の概要

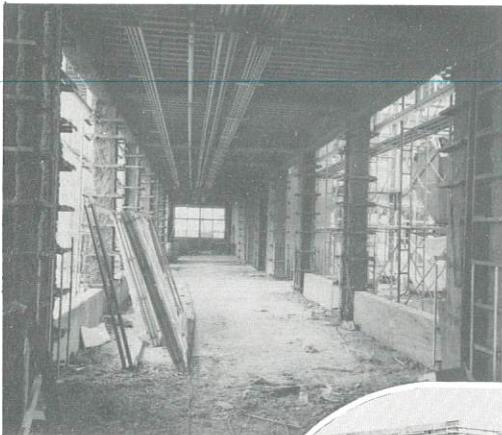
昭和48年3月24日	大阪府議会で本校の建設予算議決
昭和48年4月1日	大阪府教育委員会事務局高等学校等設立準備室において設立準備事務を開始
昭和48年6月1日	第一期工事着工
昭和48年12月13日	大阪府議会で大阪府立高等学校等設置条例の改正により本校の設置を決定
昭和49年1月1日	大阪府立高等学校等設置条例の一部改正施行により大阪府立藤井寺高等学校として発足
昭和49年3月28日	第一期工事竣工
昭和49年4月1日	大阪府高等学校設置条例により大阪府立藤井寺高等学校開校
昭和49年4月8日	第一回入学式挙行
昭和49年5月31日	第二期工事着工
昭和49年10月19日	体育館工事着工
昭和50年2月28日	第二期工事竣工
昭和50年6月4日	第三期工事着工
昭和50年6月30日	体育館プール工事竣工
昭和51年2月28日	第三期工事竣工
昭和52年2月3日	環境整備工事竣工
昭和53年4月1日	自転車置場竣工



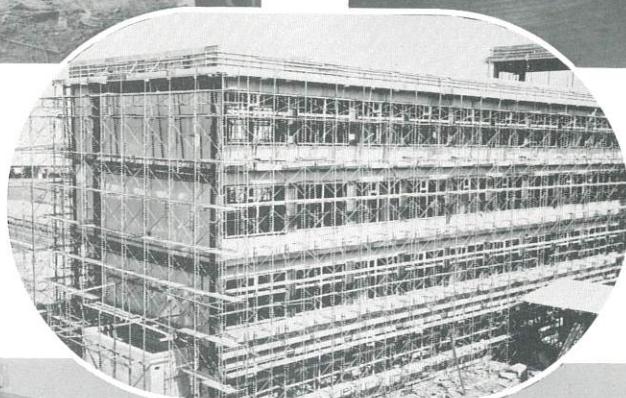
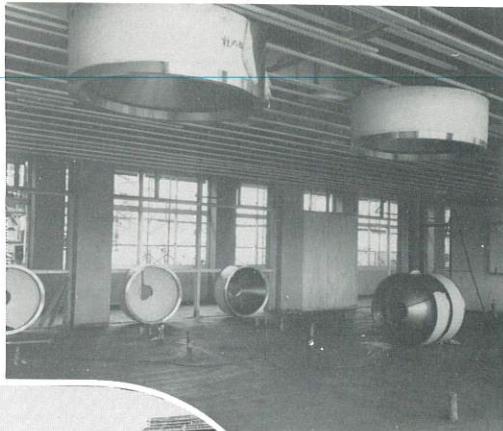
▲
第一期工事
（昭48.6.1～昭49.3.28）▼



学校の沿革



第一期工事

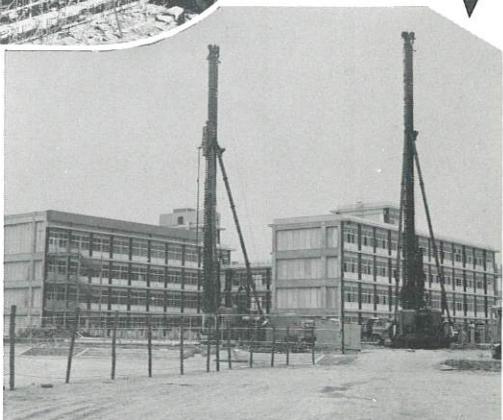
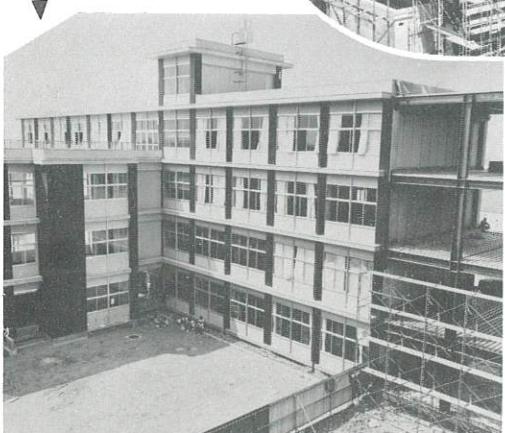


第一期工事

(昭49
5・31～昭50
2・28)

第三期工事

(昭50
6・4～昭51
2・28)

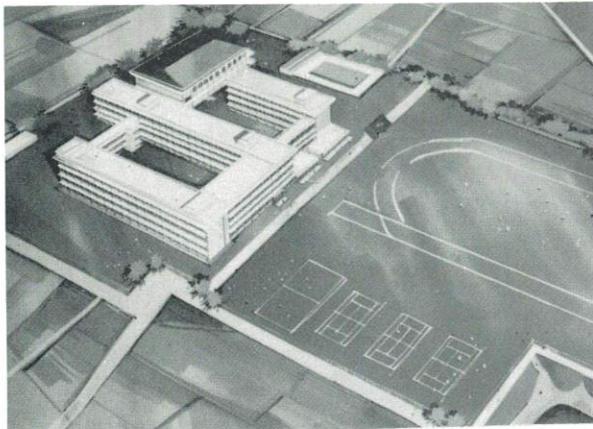


▼ 第三期工事竣工 (昭51・2・28)

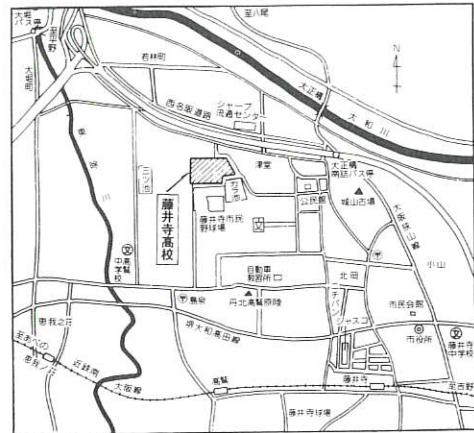


学校の全景

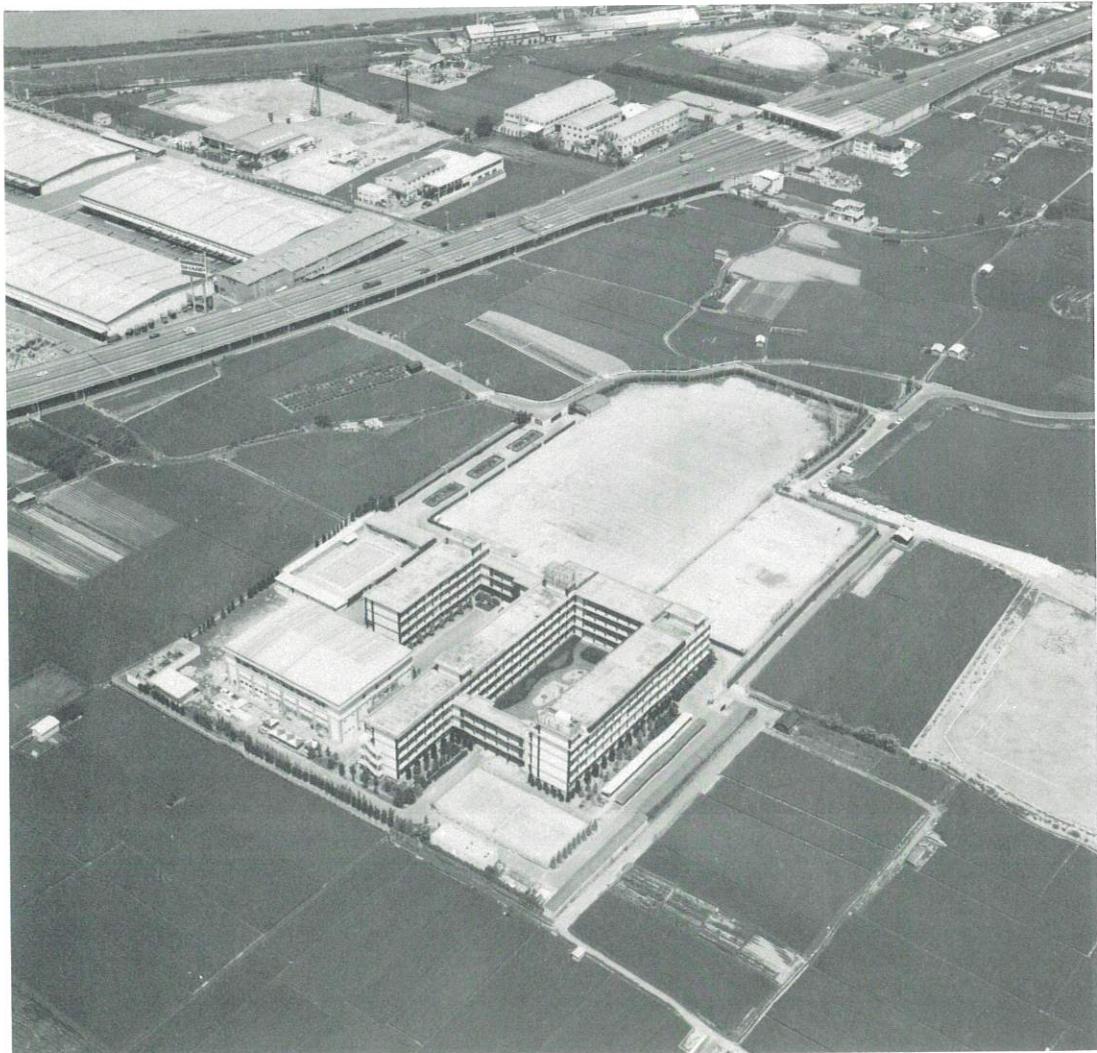
◇完成予想図



◇本校付近の見取図



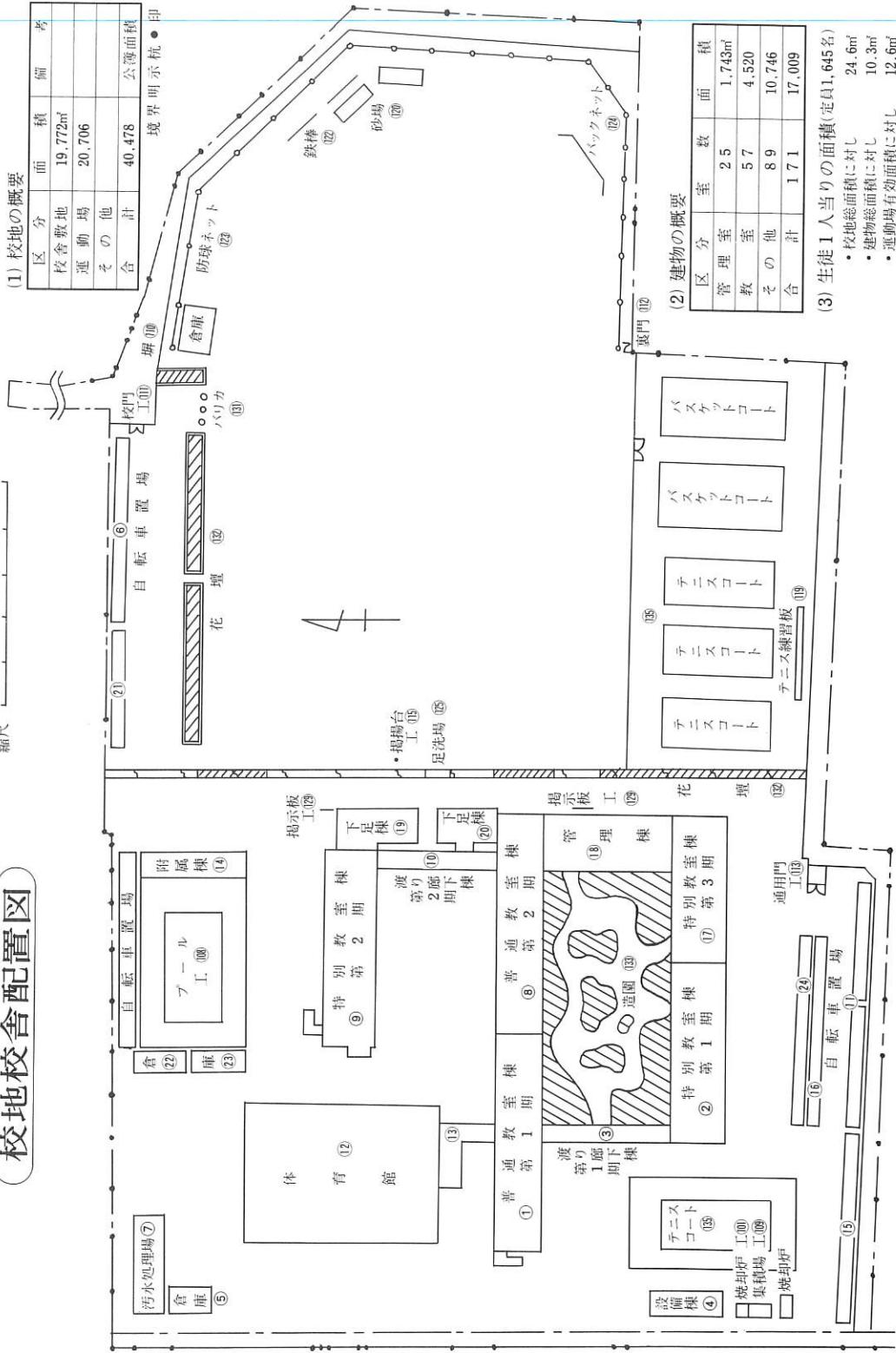
本校全 景



学校の全景

校地校舎配置図

縮尺 0 10 20 30 40 50m



座談会『思い出を語る』

記念座談会 —思ひ出を語る—



旧職員

岡原 勝 (初代教頭)
石香 亨 (府立柏原東高校校長)
南 南 (府立平野高校教頭)
末廣 禮二 (府立河南高校教頭)
橋本九二男 (府立大和川高校教諭)
小川 宏恭 (府教育指導一課指導主事)

司会

市村 拓郎 (教頭)

〔記録 — 深谷 実・藤本知代子・阿形恒秀〕

(日時:昭和58年5月7日、場所:本校校長室)

現職員

井上 悅男 (事務長)
森井 久夫 (教諭)
井板 圭子 (教諭)
秋田 正夫 (技師)

司会 本日は、お忙しい中お集りいただき有難うございます。創設以来の苦労話を忌憚なくお話しいただきたいと思います。

1. 草創の頃

司会 初代教頭の岡原先生、創設の頃を思い出して何か。

岡原 私、今日は高鶏駅から歩いてきました。

変らないものが一つありました。それはヒバリのさえずりなんです。発令されて来ました時も、ヒバリが啼いていました。鉄柱があるだ

けの野原に立って、校長、事務長、私の3名は、はたして4月に学校ができるのだろうかと案じました。「十年一昔」と申しますが、皆さんの御苦労によって年々学校も立派になり、本当に感慨無量です。

司会 南先生も、最初に兼務発令で来られたと聞いておりますが何かございましたら。

南 発令になりましたのは、2月1日で、来た当初は何をやるのか、わからない状態でした。藤井寺工業高校に開設準備室ができ、入試関係に入ってからは、やつと方向だけつかめるようになりました。

司会 入試も藤井寺工業高校で行なわれたと聞いておりますが。

座談会『思い出を語る』

南 はい、そうです。いよいよ入試という



ことになり、羽曳野・長野・長野北・松原と本校の5校が全部「定員切れ」であったのはショッキングな出発でした。しかし、今、岡

原先生もおっしゃいました通り、その後順調に伸びて、現在に至りましたのは、並々ならぬ「努力」とお互いの「和」を中心に運営された「学校組織」、それが成功したのではないかと思います。

司会 有難うございます。入学式までのことに関して何かございましたら。

南 入試会場が工業高校でしたので、女子トイレがなく、技能員さんに急遽仕切りを作ってもらったり、仮設トイレを運動場の端に設置したりで、大変でした。

岡原 入試の時、生徒の間に学力差が大層ありましたね。

南 二次で入って来た生徒は、合計点も高く、ユニークな子が多かったです。

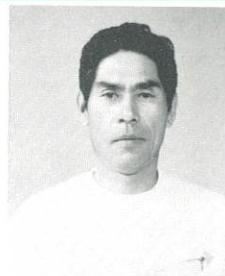
司会 入学式は、藤井寺市民会館でしたか。

南 そうです。当日、学校を生徒に見せる予定でしたが、雨が降り到底無理でした。4月8日にグラウンドができるおりませんし、机も入ってなかった。晩の9時頃大きなトラック10台程で、机が到着し、雨の中、机を運びました。

秋田 10時頃までかかりましたね。

南 あれで一日使いました。全員集まって職員会議で、どんなふうに机を4階まで上げるか考えました。

秋田 春先の雨の多い年で、長靴でなければ



登校できんという状態でした。工事現場からパネルを借りて道を作るのですが、すぐ沈んでしまい、梅雨明けまで苦労しました。

森井 今の事務室の前も水がついで、バイクは水の中を泳ぐようにして到着していましたね。

秋田 開校寸前まで電気も水道も無く、家からバケツで水を運び、お茶を沸かしたりしました。

南 最初の間、生徒にも水筒を持って来させました。

岡原 遺跡が出たために校舎の位置も初期の計画から変更になり、工事が、随分遅れましたね。

橋本 授業中も工事がどんどん進行しますので、音がやかましかったです。ドカン、ドカン杭を打ち込む音が続きました。工事の都合で、数ヶ月の間に、通ってはいけない場所が、ころころ變るんです。体育の先生など大層苦労なさったようです。ぬかるみはありますし。

2、施設・設備

司会 施設・設備のことですか。

南 最初に「視聴覚室」ができ、橋本先生が中心になって一生懸命利用されました。「図書室」も、PTAや先生方の協力で、本が集まり、充分とは言えませんが、新設校としてはよくがんばったと

座談会『思い出を語る』

思います。

板倉 本当に、さまざまの本が入っていました。

南 「校舎」は、オイルショックの関係で鉄骨ですが、工期が遅れ、同期の新設校と工法が異なっていますね。

秋田 工期は鉄骨の方が早く仕上がると言業者から聞きました。セメントも不足していましたし。

橋本 「ぼて張り」は、ひどかったですなあ。(笑い) 校舎の廊下の腰板も、うっかりしていると穴があくので、技能員さんにすぐベニヤ板で補修してもらいました。勿論、先生方もよく仕事なさいましたが P T A の方と、技能員さんに恵まれたことは、有難かったです。

3、通 学 問 題

司会 本校は、駅から遠くて通学が困難であったということですが駅前の自転車置き場や改札口のことで近鉄と交渉されたこと等、生徒の通学保障についていかがでしたか。



南 最初の頃は、駅から自転車を寸借して来るような不心得者もいて、自転車が無くなると本校に探しに来れば見つかるということもありました。

司会 そんなことがあったのですか。今では考えられないことです。本校指定の自転車置き場が、市や、当時の斎藤事務長さん等の努力で出来上り、非常に助かって

います。

小川 当時は、ほかに、単車通学・自転車の二人乗り・徒歩通学者のマナーなどについて市民からの苦情が絶え間なくありました。

岡原 この学校が出来た時から周辺の人が、自分たちの子供が来ていなくても「藤井寺高校は自分たちで創ったんだ」という大きな期待を寄せていて下さり、「地域の学校だ」という気持が大変強く、それだけに生徒の動向にも関心が高かったのです。その分、苦情も多かったように思います。

南 地域の人達への感謝状の贈呈式を本校の視聴覚室で行なった時、教育長もいらっしゃいましたね。

橋本 その日を創立記念日としたのです。5月1日でした。

司会 近鉄の高鷲駅の北側改札口をあけるよう交渉されたのは、いつ頃ですか。

小川 交渉開始は早かったのですが……。

司会 近鉄側の経費の問題か何かで、結局うまく行かなかったと聞いていますが。

小川 ただ、駅の向う側に生徒を廻して、人家の間を通らせる指導はしたと思います。

秋田 朝、遮断機の下を、生徒が遅刻しないようにくぐったり。

小川 そうでした。教員が皆、毎朝交代で、交通整理に立ちましたね。

4、一期生 気質

司会 石香先生、一期生の学年主任として何を感じられたことはございますか。三期

座談会『思い出を語る』

生あたりから生徒の気質も変って来たと伺っていますが。

石香 そうですね。とにかく驚きました。



机を並べて横同志で話ををするので注意をすると、逆に、声を揃えてシュプレヒコールが返って来たり。しかし、この学校へ来て、今まで見たことのない新しいタイプの先生を見、これも大きな発見の一つでした。生徒と四つに組んでいるという実感が湧きました。

秋田 あの当時、皆、夢中でしたな。力を合わせて「一丸」となってやらなければということです。

森井 家庭訪問を1年間で30回以上もやりました。

小川 噫煙なども多かったが、生徒が入なづく、明るかったので、指導すれば何とかなるという気持で「楽しく、厳しく」をモットーにしました。

板倉 一期生で、本校を辞めていった生徒は



30名弱でしたが学校から退学させた生徒は、一人もいなかつたように思います。

末広 それは、初代校長の森田先生の教育方針で、辞めさせることに反対だったからです。授業中騒いで手に負えないように見える生徒でも、こちらが本気になって声をかけると、ガ

ラッと良くなってくれた。「悪い」というのは、本性ではないのです。

石香 教師の、きめ細かな指導で、だんだん生徒も、わかつてくれたのではないでしょか。

橋本 具体的なエピソードについて話し出し



たらきりがありませんが、毎日の指導の積み重ねの中で、最後には「教師は、自分達の味方だ」ということが、気持の上で伝わったのだと思います。

小川 「藤高を良くしよう」という雰囲気が地域の中にも盛り上っていて、常に本校に注目しているという実態があり、我々も、地域社会・小・中学校との連携を深めるよう努めました。

司会 就職の斡旋等での御苦労は。

末広 初めての会社で紹介もなく、人事担当者と話をしても新設校のイメージが強くなかなか心を開いてもらえませんでした。「この学校は他とは少し違う」と、相手が思ってくれたら、あとは押しの一手でした。オイルショックの名残りで、新設校が乗り込む余地は無かったが、とにかく、就職試験を受けさせてほしいと頼みこみました。

司会 実績作りに苦心なさったわけですね。

進学面では、いかがでしたか。

南 進学状況も、それ程悪くはなかったと思います。

板倉 あのような状況の中で、いつも教室の

座談会「思い出を語る」

一番前列の席で喰い入るように授業を受けていた熱心な生徒がいましたからね。

橋本 私の補習に、一回も休まず出席した生徒も少なくなかった。

森井 生徒が、学校行事にも積極的に参加してきました。夏休みの林間行事など、バス2台分の参加者が集まりました。

司会 修学旅行は一期生の時からありましたか。

橋本 他の学校にあるものは一応全部揃えようという意欲的な考え方から、議論の末、物見遊山ではないという意味で「研修旅行」という名称にしました。

司会 現在のような「スキー研修」になったいきさつについては、いかがですか。

小川 生徒に、大自然の中で「何か一つ成し遂げた」という達成感を味わわせることが目的でした。二代校長の土井先生の英断で、時期・場所等を定着させ業者に左右されること

がなくなったのは、非常によかったです。

5、評判の制服

司会 本校の女子生徒の制服は、評判が良いと聞いておりますが、制定の由来についてお聞かせ下さい。

橋本 森田校長は、生徒の意向を汲んで制服を決めるというお考えでしたので、入学後すぐ各クラスで制服制定委員を作り、家庭科の清先生の指導で、生徒の望んで

いるデザインが出来上りました。

秋田 しばらくの間、サンプルを校長室に置いて、生徒に見に来させましたね。

石香 そうでした。結果として、生徒たちの喜んで身に付ける制服になっていましたね。

末広 制服が、きちんとしていると印象が良く、益々、地域の人気も高くなっています。

小川 生徒にも、プライドが出て来たようです。

橋本 入学式の時、既に校章はできていましたね。

岡原 外側は藤井寺市の市章とし、中に「高」を入れるという案が、開設準備室の段階で決まっていました。森井先生には、「藤井寺高校の歌」を作っていただきました。

6、中庭の美観

司会 来校なさった方は、必ずといってよい程、中庭を賞めて下さいますが。

秋田 当初、森田校長が、他の高校に無いものをつくりたいが、維持費を捻出できないので、なんとか世話をしてくれないかとおっしゃり、引き受けました。専門の植木屋も、土も、予算がないので、校舎を建てる際に掘った土を、そのまま使いました。土質が適さず、植木の世話を大変でした。

南 普通棟から見ると、庭石の配置が「心」という字になっていますね。

森井 「初代校長の心が生きているのだ」と

座談会『思い出を語る』

新入生に説明しています。いつ見ても何か咲いているのは、手入れの賜物ですね。

秋田 今までに府から8000本程苗木をもらつて、毎日水をやり、ここまで育てましたか、2割程枯れました。

司会 事務長さんからご覧になっての御意見は。

井上 51年に本校にお世話になった時に、先



生方の熱心さに心打たれました。その意気込みが、現時点の評価につながっていると、事務サイドからみても痛感します。

7、藤高の将来

司会 西名阪下の道路も舗装され、本校のすぐ南に立派な市民球場が建設されています。このように周辺も、どんどん発展しておりますが、最後に、藤井寺高校に期待することを一言ずつお願いします。

石香 藤高の、初期の取り組みが、その後の新設校にも、大きな影響を与えていたように思います。今後とも、初心を忘れず、頑張っていただきたい。藤高の発展に「はずみ」をつけ、他の高校をリードしていって欲しい。

小川 その「はずみ」のつけ方ですが、単に進学校と言われるような、型どおりの鍛え方ではなく、藤高なりの、生徒の個性をどうつかみ出し、どう進路指導に生かしていくかが、問題だと思います。これから先、20年後の社会は、全く予想のつ

かない世界ですが、何かユニークな発想をうち出すのに最も適した学校だと思います。先生方には、将来の情勢を早く読みとる努力を期待します。例えば、土井校長の御努力が実って生徒相談の活動では、府下でもユニークな指導をされているように、他のモデルとなるような高校を目指していただきたい。

森井 今の生徒は、我々のハードな要求にも応えてくれるようにになって来ています。これを前向きに、どう伸ばしていくかが今後の課題だと思います。

岡原 中学校の、本校への評価は、年々上つて来ているようです。10年前とは違った意味のやりがいがあるのでは、ないでしょうか。

橋本 この学校は、私の「心の故郷」です。時代も変り、学校も変って行くのだから、あるレベルで落ち着いてしまわず、常に新しく開発していく姿勢をもち続け発展してほしいと、心から祈っています。

末広 藤高は、何でも新しいことに実験的に取り組むことのできる環境にあると思います。5年先、10年先を見つめて、絶えず新しいものを求めて指導していただきたい。

司会 今後とも皆さんの御指導、御鞭撻をいただきながら、一層の発展を期したいと思います。本日はお忙しいところ、本当に有難うございました。

由来記一校章・校歌一

<校章・校歌> こうして生まれました <制服・中庭>

校 章



藤井寺市の市章をもとに、本校の限りない躍進と発展を象徴する金色の高の字を組み合せたものである。市章は、玦状耳飾と前方後円墳をデザインしており、古代の遺跡にめぐまれた藤井寺市を表わしている。玦状耳飾は縄文時代の人々が用いた装身具で、藤井寺市の国府遺跡からも出土している。玦とは中国の古代玉器の一種で、中央に孔のある円盤の一部に切り欠きのあるものをいう。藤井寺市から羽曳野市にまたがる古市古墳群は、我国でも有数の大型前方後円墳を多数含み、藤井寺市が古代において重要な地域であったことを示している。

校 歌

校 歌 作詞 森井久夫
Grandioso
作曲 森井久夫

校 歌 作詞 森井久夫
二 大和川の水清きこと
一 春霞む河内国原
萬年の歴史を称ふ
輝ける道拓かんと
新しき世紀に臨み
育みてせに問ひゆかむ
藤井寺高校



— 作者のことば —

作詞・作曲

森井久夫

この校歌は大和川の堤防で生まれました。近鉄「国分駅」から大和川に沿って約7km西下したところに藤井寺高校があります。私はこの道を、晴雨にかかわらず、自転車のペダルを踏みながら通いました。南には応神天皇陵をはじめ、巨大古墳の森が次々に姿を見せ私の心を引きました。東には二上山、金剛、葛城の山々が悠然とすわり、帰路を楽しませてくれました。また大和川の四季の移り変わりもすばらしいものでした。春のつくしん坊菜の花の群生、夏の緑と野鳥の歌声、秋の月見草、冬のユリカモメや鴨の飛来、この美しい自然を充分に観賞しながら、私は口笛を吹き、校歌を作りました。万葉集が好きだったので、歌詞は五七調にし、頭に浮かんだ歌詞に勝手なメロディをつけて、あれこれと考えているうちに現在の形のものができ上がりました。したがってこの校歌は頭で作ったのではなく、大和川と御陵を目の前に見ながら自然に浮かんできたものです。

開校まもなく、校歌早期制作の声があがり、さっそく全職員・生徒より歌詞を募集した。しかし、校歌としてふさわしい歌詞がなく、結局、音楽方面でも活躍中の国語科の森井久夫教諭に制作を依頼。昭和50年春「藤井寺高等学校的歌」として誕生。清らかなメロディーと、古き歴史を語る地に本校の発展を願う詩は、職員・生徒に親しまれ長く歌われてきた。このたび、創立10周年にあたり「校歌」として制定された。

制服

学園紛争の嵐が過ぎた直後に創設された本校では当初制服は未制定で、生徒は暫定的に中学校の制服のまま通学することになった。生徒、保護者の早く制服制定をとの強い要望により、生徒、PTA、教員の代表からなる制服制定委員会により検討がすすめられた。問題となったのは女子の制服である。当時の家庭科の清先生によるデザインをもとに広く意見を取り入れ、ようやく制服が決定された。ネクタイは夏・冬とも学園の平和と発展を表わすカラーであるグリーンに統一した。

6月1日の夏服より、真新しい制服で全員が晴々と登校できることになった。さいわい本校の制服は、生徒、父母、それに一般市民にも好評を博している。



男子制服 ④ 詰め衿学生服
女子制服 ④
夏|カッターシャツ(白)
ズボン(黒)
シャツブラウス(白)
ブレザー(紺)
ベスト(紺)
ブリーツスカート(紺)
ショーツ(白)
ネクタイ(短)(深緑)
ネクタイ(長)(深緑)

中庭

第三期工事の一環として昭和51年に完成した。初代森田校長の発案によるもので、様式は、八方正面の俯瞰庭園である。

中央部分は、16個の丹波石と白川砂敷の石庭となっており、上方より見ると「心」の字となるように配置されている。石庭部の周囲には高麗芝の部分、校舎との境界部に灌木帯を配している。

灌木帯の樹種は、ヒラドツツジ、サツキ、ドウダンツツジ、シシガシラ、ジンチョウゲなどである。技師の方々の除草、剪定、消毒といった維持管理の努力のおかげで、季節に応じて、芝生の緑、美しい花々が目を楽しませ、やすらぎをもたらし、また夏のきびしい日ざしを大いにやわらげ、学習環境を高める効果は、極めて大きいものがある。



校務分掌各部のあゆみ

校務分掌 各部のあゆみ

教務部

初年度は藤井寺工業高校で入学試験を行なったが、7学区で同時に3校開校したため、定員割れとなり、2次募集を行なった。時間割作成はトレーニングペーパーだけでおこない、英語、数学、は習熟度別学習を予測して、1・2・3組、4・5・6組……を同時に授業を行うように組んだりした。1期生は生徒の学力差が大きく、講習、補習等を積極的に行なったが、生徒の特質をつかみきれず、対応しきれなかった部分がある。カリキュラムも別表のようにできるだけ選択をふやし、生徒の負担を少なくしようとしたが、教室の移動

が多く、それが生徒の無責任を助長させた面もある。

・本校は教務に関して、一定の方向をめざして進んできとはいひない。問題点が出てくるたびに改善する方向で、少しづつ進んできた。教員の多数が改革の必要性を感じた問題について改めていくという姿勢が今日の本校の発展につながってきたと思う。

今後教務としては、組織的な運用を行なつていかなければならない。特に成績処理については、効率的な方法を考えていきたい。ただあくまでも、我々は生きた人間を相手にしているということを、忘れてはいけない。

◇新・旧カリキュラム

昭和49年度教育課程表

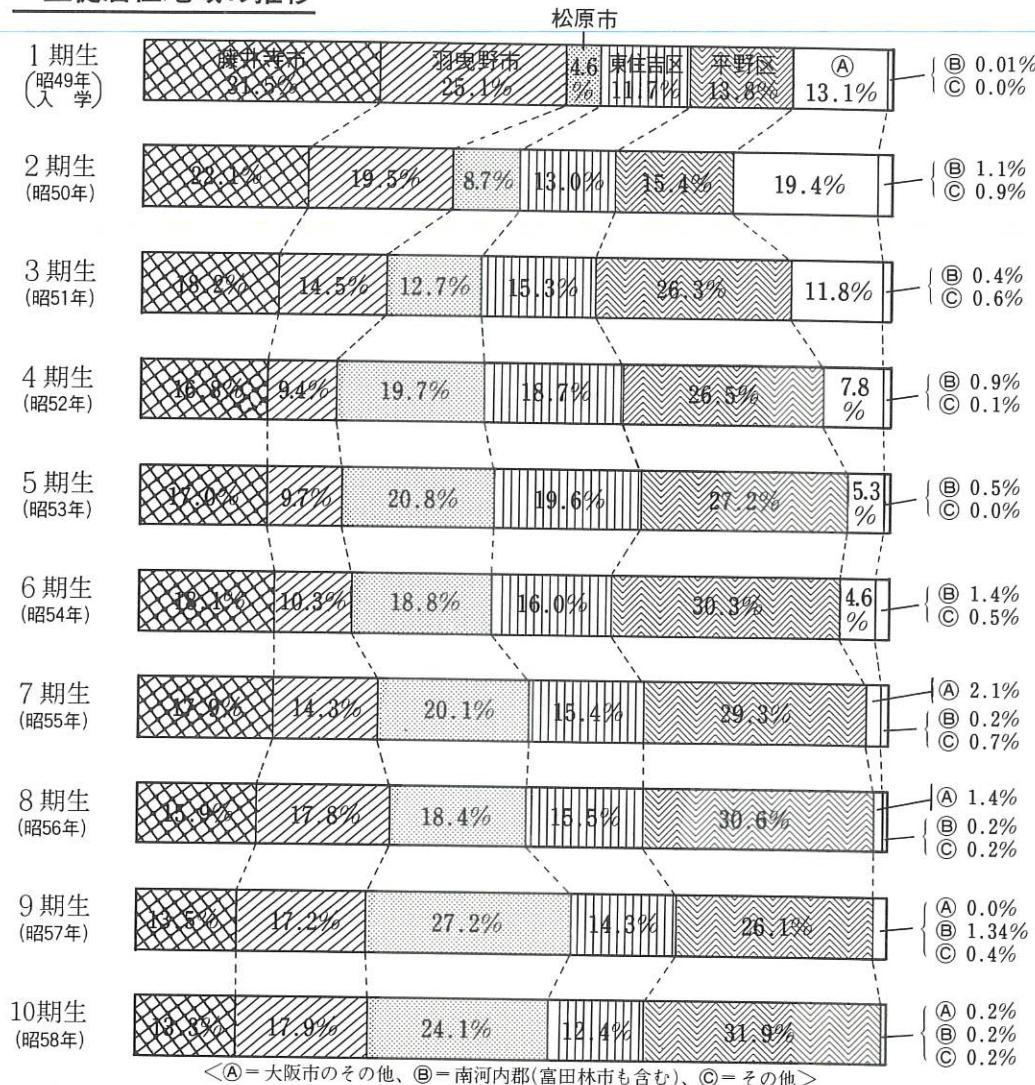
教科	科目	学年	入学年度				昭和49年度				学年	
			I	II	III	IV	計	I	II	III	IV	
国語	現代国語	I	3	2	*2	3		3	2	*2	3	
	古文	I 甲	2	3					2	3		
	古文	I 乙	2	3					2	3		
社会	倫理	II		2					2			
	政治	II		2					2			
	日本経済史			2					3	*2		
地政	地理	A	3						*2			
	地理	B							*2			
	地理	C							*2			
数学	数学	一般										
	数学	I	1	6					6			
	数学	II A										
学	数学	II B		3	*2	2	□2		3	*2		
	数学	III							6			
	应用数学											
理科	基礎理科学											
	物理	I		3					3			
	物理	II		3					3			
科	化学	I		3					3			
	化学	II		3					3			
	生物	I	1	3					3			
科	生物	II	1	2					2			
	地学	I							△3			
	地学	II							△3			
保健	体育	男4	男4	男4	3	□2		男4	男4	男4	3	
	保健	女2	女2	女2	3	□2		女2	女2	女2	3	
	保健	1	1	1	1	1		1	1	1	1	
芸術	音楽	I	2						2			
	音楽	II	2						2			
	音楽	III	2						2			
外国語	英語	A										
	英語	B	6	5	5	□2		6	5	5	7	
	英語	C										
家庭	家庭	一般	女2	女2					女2	女2		
	食物	I							□2			
	被服	I							□2			
施設			※2	2	3	□2		※2	2	3	□2	
			より	より	より	より		より	より	より	より	
			一科目	二科目	三科目	四科目		一科目	二科目	三科目	四科目	
教科・科目の計		32	32	32				96	32	32	32	96
各教科以外の教育活動		2	2	2				6	2	2	2	6
総計		34	34	34				102	34	34	34	102

昭和58年度教育課程表

教科	科目	学年	3年			
			1年	2年	A	B
国語	国語 I	5				
	国語 II		4			
	国語 III			3	3	3
社会	古典 I			3 △2	△2	
	现代社会	4				
	日本史	○4		5	5	3 △2
会	世界史	○4		2		△2
	地理	○4			2	2
	地政 B			△2	△2	
数	数学 I	5				
	代数・幾何		2			
	基礎解析		3			
学	数学 II B			3	2	3
	数学 III				3	4
	理科 I	4				
理	化学生物		2			
	物理 II		3			
	化学 II		○3 △2	3	3	
科	生物学 II		○3	○3	○3	
	地学 II			○3		
	保育	男4 女2	男4 女2	3 △2	3	3
健	保健	1	1			
	音・美・舞 I	2				
	音・美・舞 II		2			
艺	音・美・舞 III			△2	△2	
	英語 I	5				
	英語 II		5			
英	英語 B			6 △2	6 △2	6
	家庭一般	女2	女2			
	食生活 I			女 △2	女 △2	
教科・科目の計		30	30	32	32	32
H R クラブ活動		2	2	2	2	2
教育課程を補完充実するための活動		2	2			
			○の中から一つ選択	△の中から一つ選択	□の中から一つ選択	
						同左

校務分掌各部のあゆみ

◇生徒居住地域の推移



進路指導部

本校の最近の進路状況は、別表の通り、きわめて好調であるが、これは一期生以来今日まで変ることなく全職員及び進路指導部が共通理解のもとに、めざし努力してきた“個々の生徒の進路保障”という目標が着実に実を結んできている結果だと言える。

1、本校の進路指導

進路指導は、全校的な協力体制の中で進められるのが建前であるが、学級担任が行う進路指導を重視し、その指導の進め方に関連して、進路指導部が援助するいわゆる学級担任

中心型をとっている。生徒達に、人間として望ましい生き方を自覚させ、将来の生活においてよりよい自己を実現させるためには、進路に対する自覚をできるだけ早い時期から持たせることが望ましいと考える。

そのために、一年時から、生徒及び保護者向けの進路説明会を継続的に持ったり、「進路の手引」や「同別冊」の配布、その他の進路情報を流すことにより啓蒙につとめている。

2、実力テストと進路資料

これまでの校内実力テストでは、出題の範囲や問題の難易度等の点で、その結果が即資

校務分掌各部のあゆみ

料として用いられるには、信憑性を欠くところがあり、利用価値が乏しいという反省に立ち、本年度から、全学年にわたる実力テスト計画が作成された。また外部の業者テストについては、全国レベルでの位置づけを知るために、出来るだけ受験をすすめている。

3、進路指導

別表の進路概況だけでは明らかではないが7期生については、従来より特に優秀な成績をあげた。1~2の例をあげるなら、国公立大学への現役合格者は、3期生で1名のみであったが、7期生に至って4年振りに2名となつた他、近畿大学では、一挙に61名の合格者を出し、昨年度の約2倍強の伸びを示している。今後もこの勢いをもって好成績を期待したいものである。短大や、専門学校についても着実に伸びていると言える。

4、就職指導

このところ不景気の影響で、民間企業への一次の就職率は、少々不調だと言うものの、大手有名企業への就職については安定しており、中小企業についても、最終的には100%の成績を修めている。これもひとえに、小さなところまで神経を使い、きめの細い指導の賜物だと言える。公務員関係についても、激しい競争にもかかわらず、よく頑張っている。

◇主な進学・就職先(1~7期生)

I 大 学

(1) 国公立

信州、京都工芸繊維、大阪外語、大阪教育、神戸
姫路工業、高知、大阪市立、大阪府立、筑波
大阪女子

(2) 私 立

100名 ~300名	近畿、桃山学院、大阪商業
50名 ~99名	大阪産業、大阪工業、関西、大阪経済
10名 ~ 49名	大阪電気通信、摂南、立命館、大阪芸術 追手門学院、龍谷、京都産業、大阪学院 四天王寺国際仏教、佛教、神戸学院、甲南 奈良、関西学院、関西外語、大谷女子 京都外語、大阪経済法科、天理、英知 同志社

II 短 大

50名 ~120名	四天王寺国際仏教、金蘭、大阪成蹊女子 夙川学院、常盤会
20名 ~ 49名	帝塚山、浪速、関西外語、大阪基督教 大手前女子、武庫川女子、帝国女子 大阪女子
10名 ~ 19名	大阪女子学園、園田学園女子 奈良文化女子、大阪音楽、大阪城南女子 大阪信愛女学院、大阪産業、大谷女子 関西女子、梅花、帝塚山学院、大阪千代田 関西女子美術、大阪樟蔭女子別科

III 専門学校

20名 ~30名	行岡保健衛生学院、日本ビジネススクール 大阪電子専門学校
10名 ~ 19名	あべの辻調理師学校 京都コンピューター学院 関西経理専門学校、大阪デザイナー学院 府立職業訓練所、大阪写真専門学校 大阪工業技術専門学校、大阪保育学院 清喜会医療専門学院 関西医科大学附属第一看護専門学校 府歯科医師会歯科衛生師専門学校 情報理工学院

IV 就 職

10名 ~ 40名	国家公務員、松下電産、大阪府警 日本国有鉄道、モトヤ、福屋、資生堂 大阪市消防、小中学校事務職員 飯田グループ、大阪府職員、近鉄百貨店 電々公社、大丸百貨店、紀伊産業 大和銀行、八光信用金庫、イズミヤ シャディ
5名 ~ 9名	シャープ、美津濃、住友生命、三和銀行 檜山、古林紙工、シャルム、第一勧銀 太陽神戸、近畿日本鉄道、ダイハツ 大川通商、住友銀行、日本生命 大阪市交通局、陸上自衛隊、丸高衣料 柏原機械製作所、大西衣料、八尾市農協 つるや、セガミ、近畿相互、久保田鉄工 関西電力、大阪ガス、大阪市役所 松原市役所、日本壁材、マツヤデンキ カネボウ



▲ 進路関係発行物

校務分掌各部のあゆみ

◇進路状況

1~7期生進路先（現役のみ）

年 度	期	卒業者数	大 学	短 大	専門学校 修	就 職	浪 人	その他の
昭和 51年度	1 期生	506名	115	70	57	115	149	
		267	239	96 19	7 63	20 37	22 93	122 27
	2 期生	522	88	95	71	128	140	
		277	245	75 13	6 89	32 39	44 84	120 20
	3 期生	522	124	113	74	120	91	
		264	258	102 22	0 113	24 50	53 67	85 6
	4 期生	538	106	115	86	135	96	
		270	268	87 19	5 110	47 39	48 87	83 13
	5 期生	550	116	114	84	164	72	
		262	288	96 20	0 114	34 50	71 93	61 11
	6 期生	542	97	106	96	158	85	
		262	280	86 11	7 99	39 57	54 104	76 9
	7 期生	556	126	135	85	124	86	
		274	282	108 18	4 131	42 43	44 80	76 10
合 計		3736	772	748	553	944	719	
		1876	1860	650 122	29 719	238 315	336 608	623 96

下段数字は左男子、右女子を表わす

◇進路指導計画

下記の如く進路活動年間行事計画にもとづき、きめ細かい指導を行う。

- 4月 第一回進路調査（4月…2・3年生、12月…1年生）
- 5月 PTA総会にて卒業生進路状況説明
- 6月 大学、短大、専門学校説明会（保護者、生徒）
- 適宜卒業生との懇談会（就職、進学）
- 7月 就職講話（保護者）
- 5月～9月 就職講習
- 5月～12月 進学者向け講習
- 適宜進路の手引、しおり等の配布
- 9月 就職希望者に対して面接指導
- 10月 大学入試情報にもとづく、入試説明会
- 適宜保護者懇談会
- 11月 第二回進路調査（2年生）

図書視聴覚部

◇図書室

創立一年目は現図書室は職員室となっており、その一角に教員の好意による数百冊の本をもとに開設された。蔵書数も十年目にして約一万冊になり、辞典類など内容も充実してきた。生徒の利用状況も年々良くなっている。

分類別蔵書冊数(昭和58年3月末現在)

NDC 1次区分分類	冊 数	%
0 総 記	632	7
1 哲 学	250	3
2 歴 史	822	9
3 社 会 科 学	458	5
4 自 然 科 学	792	9
5 技 術、工 学、工 業	251	3
6 産 業	76	1
7 芸 術	888	10
8 語 学	302	3
9 文 学	2,594	28
10 その他の文庫・新書	2,050	22
合 計	9,115	100



図書室

蔵書冊数の推移

◇視聴覚

創立1年目、現視聴覚教室は音楽室として使用されており、視聴覚教室としての整備は3年目の昭和51年度よりはじめられた。16%、8%、それにビデオ装置を中心と現在では府下有数の設備を所有するに至り、利用率も高い。

年 度	蔵書冊数
49	1,273
50	2,661
51	3,225
52	4,019
53	5,019
54	6,031
55	7,058
56	8,122
57	9,115

校務分掌各部のあゆみ

主要視聴覚機材一覧

機材名他	数	機材名他	数
○16mm映写機	2台	○ビデオデッキ ・Uマチャク	1台
○8mmカメラ ・シングル6倍ズーム ・サウンドスープ8倍ズーム	1台	・ポータブル白黒オープンリール	1台
○8mm映写機 ・サイレント ・サウンド	1台	・ベーターマックタス	4台
○カメラ ・一眼レフ ・レンズシャッター	2台	・ポータブルベーターマックス	1台
○レンズ ・35mm広角 ・135mm望遠	1本	○ビデオモニターテレビ	11台
○ストロボ	1本	○オーバーヘッドプロジェクター	2台
○ビデオカメラ ・白黒用 ・カラー用	1台	○テープレコーダー	5台
		○スライド映写機	4台
		○ステレオシステム	1台
		○ビデオテープ ・Uマチック用 ・Bマックス用	120本
		○カセットテープ	300本
			50本



▲ 視聴覚室

保 健 部

保健部は健康・環境・安全の3管理で出発し、生徒保健委員会は50年度から活動を開始した。

1、健康管理

定期健康診断を通じて処置依頼書を発行し各自の健康管理に留意させている。特に問題視されるのは、う歯保有が多く(95%)、処置

完了者は極めて低率(40%)である。また、テレビの普及、悪い姿勢等が原因で、裸眼視力1.0未満の生徒が50~60%もあり、年々増加してきており、コンタクト装用者も年々増加している。う歯保有率及び裸眼視力1.0未満の生徒は10年間あまり変化はない。

2、環境管理

毎日の掃除、月1回と学期始めと終りの大掃除は、全職員が監督指導にあたり、環境美化を生徒とともに強力にすすめている。

3、安全管理

校舎内外の安全点検は、毎学期始めに大掃除の際実施し、早期に危険箇所を発見してその修理を行なっている。更に、学校内の環境維持につとめると共に、生徒への公共物愛護の意識を高めるよう啓蒙している。

4、保健委員会活動

生徒会のこの委員会は、他校との交流を持つため、他校を訪問し、座談会や見学をしたり、藤高フェスティバル(文化の部)への参加、「保健だより」の発行、美化衛生班としての清掃点検などを主な活動としている。

5、保健室での救急処置

保健室での救急処置者は年々増加の傾向にある。開校当時の生徒は、運動が活発であったためか外科的疾患が目立った。内科的疾患の場合は、夜ふかしによる睡眠不足のための頭痛・疲労、また、暴飲暴食による腹痛が主であった。最近の傾向は、内科的疾患が増えつつある。特に不定愁訴が多く、また、精神的悩み・性的な相談のための来室者も増えてきた。



▲ 保健関係発行物

校務分掌各部のあゆみ

昭和57年度保健室利用回数人数

(内科的疾患のみ)

回数	1回	2	3	4	5	6	7	8	9	10以上	計
人 数	367	185	85	36	18	10	7	4	3	7	722

来室回数で最高者は64回であった。年々このような生徒が増えている。

昭和57年度保健室利用状況

内 科 的 疾 患 (計 601 件)	1	感 冒	413	12	め ま い	19
	2	腹 痛	273	13	じ ん 麻 疹	9
	3	頭 痛	253	13	腰 痛	9
	4	気 分 不 良	122	15	歯 痛	8
	5	悪 心 ・嘔 吐	106	16	眼 科 疾 患	5
	6	脱 力 感 ・倦 怠 感	97	16	頭 重	5
	7	生 理 痛	86	18	呼 吸 困 難	3
	8	胃 痛	74	18	耳 鼻 科 疾 患	3
	9	下 痢	30	20	過 呼 吸 症 候 群	2
	10	神 経 症	27	21	心 悸 亢 進	1
	11	脳 貧 血	21	22	そ の 他	35
外 科 的 疾 患 (計 578 件)	1	す り 傷	106	8	水 疱	18
	2	打 撲	97	9	鼻 出 血	12
	3	つ き 指	78	10	刺 傷	10
	4	捻 挫	61	11	骨 折	5
	5	目の異物・打撲	46	12	脱 臼	4
	6	関節痛・筋肉痛	36	13	脳 し ん と う	3
	7	切 傷	35	14	そ の 他	67

身 体 状 況

► 女子

年令	区 分	51年	54年	57年	51年	54年	57年
身 長	本校平均	167.1	168.7	167.8	156.2	157.7	157.1
	大阪平均	166.9	167.3	167.7	156.5	156.7	157.1
	全国平均	166.3	166.7	167.3	155.7	156.1	156.6
16	本校平均	168.6	169.5	169.0	157.3	157.6	157.2
	大阪平均	168.5	168.9	169.4	157.2	157.1	157.7
	全国平均	168.1	168.6	169.0	156.2	156.5	156.9
17	本校平均	168.5	170.5	170.0	157.2	158.0	157.2
	大阪平均	169.0	169.7	170.2	157.5	156.8	157.5
	全国平均	169.1	169.4	169.7	156.3	156.6	157.1
体 重	本校平均	55.0	58.8	58.2	49.5	50.9	51.4
	大阪平均	56.1	56.3	57.0	50.5	50.6	51.0
	全国平均	55.8	56.4	57.1	50.7	51.0	51.7
16	本校平均	56.5	59.0	60.5	51.1	52.1	52.1
	大阪平均	57.6	58.9	59.0	51.6	51.0	51.6
	全国平均	58.0	58.8	59.2	51.9	51.9	52.2
17	本校平均	59.2	61.3	61.8	51.4	52.5	52.4
	大阪平均	59.5	60.3	60.5	51.8	51.7	51.7
	全国平均	59.4	60.2	60.6	52.2	52.0	52.3
胸 围	本校平均	81.1	82.5	80.7	81.4	79.7	79.7
	大阪平均	82.5	81.9	82.2	80.0	80.2	80.0
	全国平均	82.4	82.3	82.6	80.7	80.6	80.9
16	本校平均	82.6	83.1	82.5	82.1	80.5	79.8
	大阪平均	83.8	84.1	84.0	81.0	80.8	80.4
	全国平均	84.2	84.3	84.3	81.5	81.3	81.5
17	本校平均	84.5	84.9	84.2	82.3	81.1	80.3
	大阪平均	84.6	85.3	85.4	81.0	81.5	80.8
	全国平均	85.6	85.8	85.7	81.9	81.7	81.7

生 徒 指 導 部

創立当初は、生徒も校舎建築の「ツチ音」を聞きながらの学校生活で、学習面、運動面でいろいろと苦心をした。創設期は、特に、生徒指導の役割が重要で、本校の目標も、基本的生活習慣の確立、自主的活動の育成などを中心に、全職員一致して、生徒指導に取り組んできた。

生指部は担当部門が広く、生徒指導、ホーム・ルーム、生徒会、部活動、教育相談など多岐にわたっている。問題生徒の指導にあたっては、その生徒の問題点を適確にとらえ、充分な配慮と愛情をもって生徒を理解し指導している。また、最近の傾向として、精神的心理的な面で学校生活への不適応を示す生徒もみられ、本校でも、数年前より相談室を開設し、積極的に取り組んでいる。

今後とも、規律ある学校生活の中で、生徒の自主的活動を尊重しつつ、楽しい学校づくりをめざしたい。

生徒会

目的

生徒会員の自主的精神に基づいた相互協力により、学校生活を実り多いものにすることを目的とする。

この目的達成のために次の活動を行う。

1. 文化・体育活動の振興、学校行事への協力
2. 学校生活の明朗化促進
3. 会員の福祉増進

(生徒会則第3条より)

校務分掌各部のあゆみ

歴代生徒会役員

年 度	会 長	副 会 長	書 記	会 計
50	今田義和	伊藤恵子	橋本幸一	梅田邦彦
51 前	南雲銳一	浦田隆弘	平谷 緑	京屋みゆき
51 後	森田和也	田中光司	佐古哲也	吉岡由美
52 前	上原なぎさ	柏崎好美	菅 美智子	吉岡由美
52 後	松島新一	山㟢博一	田中幹男	川津未津子
53 前	林 一久	渡辺俊一	森 仁美	吉岡貴子
53 後	中村賀津雄	浅田厚美	北村 敦	杉山 京
54 前	林 一久	渡辺俊一	浜田隼登志	播磨弘一郎
54 後	京井安雄	坂口照幸	村上秀炫	天野悦郎
55 前	村上秀炫	藤森律子	河崎真理	城崎千恵美
55 後	安倍達也	村上秀炫	野口史雄	北野徳子
56 前	田中基一	野口史雄	加島勝也	中川千恵美
56 後	加藤文佳	野元輝彦	水田美穂	帆足英子
57 前	松山晃一郎	水田美穂	西井春幸	吉田覧一
57 後	堀口知伸	寺西淳子	安倍靖之	上坂和宏
58 前	西本義文	貴田広美	吉川昌也	鴻池洋子
58 後				

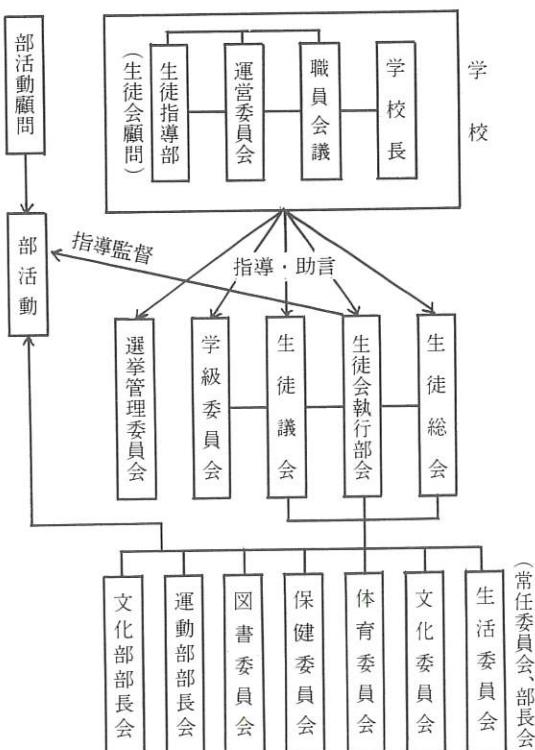
△生徒会の主な行事

- クラブ紹介（4月）
- 文化部合同発表（6月、2月）
- 藤高フェスティバル { 体育の部（6月）
文化の部（9月）}
- 校内球技大会（年2～3回）
- カルタ大会（1月）
- 生徒会会報発行（2月）
- 生徒総会（年2～3回）
- 生徒議会（定期例月1回、臨時）
- 役員会、各委員会（適宜）



生徒会関係発行物

△生徒会組織





教 育 相 談

開校前年度に登場した必修クラブの扱いは校舎等完成途上の本校にとって難題であった。その後、幾多の変遷を経つつも必修クラブの目的達成に向って前進しつつある。

昭和49～50年度 部活動と一体化した形で実施。

昭和51～54年度 部活動中心に、必修クラブ独自のものを上乗せして実施。

昭和55年度 学級単位で活動する講座ローテーション方式で実施。

昭和56～58年度 過去の経験と反省のうえにたち、活動可能な場所で内容を精選した形での部活動中心にした上乗せ方式で実施。

昭和49年度必修クラブ

体育系	バスケットボール、バレーボール、ハンドボール、軟式テニス、バドミントン、卓球、陸上競技、柔道、サッカー
文化系	文芸、演劇、写真、茶華道、書道、美術、音楽、数研、英研、園芸、手芸

昭和58年度必修クラブ

体育系	ゴルフ、柔道、バレーボール、野球基礎トレーニング、男子硬式テニス、女子硬式テニス、ジョギング、剣道、男子バスケットボール、女子バスケットボール、トランポリン、バドミントン、サッカー、ソフトボール、ラグビー、軟式テニス、ワンダーフォーゲル、YOGA
文化系	数学補習、古代史、数理研究、SEY、文芸、囲碁、朝鮮文化研究、箏曲、男子料理、地理、フランス語入門、英語なんでも、華道、電気工作、マイコン入門、近代詩研究、将棋、小説文学創作、茶道、書道、数学教室、映画鑑賞

相談室は、主として不適応症状を示す生徒を中心に、その対応指導のあり方を模索しながら活動してきた。生徒のおかれた事情の複雑さを理解することを出発点とし、同時にこれを目標にして、ケースワーク的な情報の収集、教員相互の協力推進、そして、度々の事例会議等を重ねてきた。試行錯誤もあり充分であったとも言えまい。いまだ模索の段階といえる。

昭和53年度

- 生徒指導部に相談係を設置。係員6名。
- 生徒も落ち着き、生徒指導にも工夫が必要であるという主旨。
- 1年生へP AI 実施・教科準備室等を相談室に当てる。
- 相談室案内のプリントを生徒へ配布。
- 自主来談を促す一方、不登校生の相談、懲戒生徒への事後指導に当る。

昭和54年度

- 兼任を避ける方向で係員4名。

昭和55年度

- 4月一 不適応、不登校生徒が増えてきたため、54年度の校内実態調査実施。

- 5月一 保健部、生徒指導部、同和教育推進委員会主催で職員研修実施。「不適応生徒への指導のあり方をどうするか」保健室、同和推進委員との連携を強め指導のあり方を模索する。

- 10月一 職員研修 “精神医学講演”
湖南病院長 木田孝太郎

昭和56年度

- 4月一 独立した「相談室」を設置。生徒指導部(6名)、保健部(2名)、進路指導部(1名)、それぞれ相談室員と相談室を運営。室長は室員の互選。

- YG検査(全学年)及びYG相談の実施。

昭和57年度

- 4月一 YG検査及びYG相談の実施(1.3年)
- 7月一 職員研修 相談室主催
「生徒事例の報告と研究」

校務分掌各部のあゆみ

総務部



昭和49年学校創設当時の実行委員会の議事録を見ると、学校と保護者が、いかに真剣に学校作りに取り組んできたかがうかがえる。その一つが通学の為、通行している農道である。この道は、三つの市にまたがって地主がおられる。この道を通学路として拡張、舗装してもらうべく、各方面への度重なる陳情、折衝も一向に実を結ばない。せめて橋に鉄板をと買い求めて、休みの日に架けたら、翌日には早速地主から厳重な抗議があって撤去したとある。あれから10年、環境委員会も随分暇になってきた。

1. 組織づくり

- 49年 藤井寺高校PTA設立総会
50~57年 余暇活動を促進する会

2. 環境整備活動

- 49年 通学用農道に関する件（継続）
50年 高鷺駅専用改札口設置の件
50年 松原市若林地区焼却炉建設の件
53年 藤井寺駅近くに専用自転車置場設置
55・57年 西名阪高速道路の側道舗装
55年 津堂交差点にミラー・標識設置
57年 運動場周辺道路にカーブミラー設置

3. 文化活動

- 広報活動
50年 PTA新聞「育友」創刊号発行
(現在第12号まで発行済)

○講演会

- 51年 上寺久雄・大阪教育大教授
52年 野村哲也・社会事業短大教授
52年 三浦政雄・全国進路研究所顧問
56年 三木正美・浪速予備校校長
57年 中畔 肇・阪南大学常務理事
57年 足立健次郎・城南女子短大教授

○研修会

- 51年 薬師寺・唐招提寺方面

- 54年 清滝方面
56年 室生寺・伊賀上野組紐センター
57年 竜野市・竜野城跡方面
○藤高フェスティバル参加
49年 会員作品展示・バザー・映画
(於・藤井寺市民総合会館)

- 50年 会員作品展示会
51年~52年 バザー
53年~58年 会員作品展示会

4. 進路に関する活動

- 54年~58年 模擬試験実施



藤高フェスティバル「PTAバザー」(昭和52年)



▲ PTA関係発行物

目的

本校教育の振興をはかり、あわせて会員相互の親睦をはかる。

上記の目的を達成するための民主団体であり、他のいかなる団体の支配、干渉をも受けず、また、学校管理や教員の人事にも干渉しない。

(PTA規約第2条より)

校務分掌各部のあゆみ

歴代 P T A 役員一覧

年度 役名	49	50	51	52	53	54	55	56	57	58
会長	山本義一	山本義一	山本義一	辻本義一	広嶋昭三郎	広嶋昭三郎	広嶋昭三郎	辻本 肇	高田昌亮	杉本邦男
副会長	寺田一之	寺田一之	寺田一之	大松隆藏	北口茂良	北口茂良	辻本 肇	高田昌亮	安井将浩	笠原純英
	竹綱逸子	竹綱逸子	木村一雄	北口茂良	明瀬歳治	明瀬歳治	山口 弘	吉野富子	杉本邦男	喜多啓介
			木村一雄	土井スエ子	内本八重子	吉野富子	吉野富子	安井将浩	大橋光子	田中弘子
書記	本多弘子	本多弘子	竹綱逸子	広嶋昭三郎	三宅弘子	辻本 肇	居嶋知子	居嶋知子	三好節子	中西千代子
	橋本九二男	前田昭吾	寺本 勉	山内政治	小川 勇	小川 勇	小川 勇	瀬戸勝巳	瀬戸勝巳	瀬戸勝巳
会計	木村一雄	赤松政雄	坂東貞雄	富永和子	森氏 清	森氏 清	高田昌亮	杉本邦男	笠原純英	上野弘美
	斎藤 博	井上悦男	井上悦男	井上悦男	井上悦男					
会計監査	赤松政雄	永井克巳	赤松政雄	西野文子	藤林禎造	藤林禎造	岡田雄作	山口 弘	山口 弘	西 純子
	北口茂良	坂東貞雄	大松隆藏	内本八重子	鈴谷悦子	安田義徳	天見晴一	高光行子	田中弘子	福間咲子
	北野満蔵	岡田 茂	永井克巳	藤林禎造	安田義徳	大松隆藏	高光行子	河崎道子	上野弘美	林 式子
企画	坂東貞雄	北口茂良	北口茂良	西 忠治	西 忠治	西 忠治	谷本彦一	安方文治	喜多啓介	山本隆治
環境	永井克巳	辻本義一	辻本義一	明瀬歳治	西野忠次	西野忠次	山本忠彦	山本忠彦	中村佐智子	阿波島政子
進路		花川忠彦	花川忠彦	辻 伸一	磯野尚三	磯野尚三	小池勝次	小池勝次	元山隆雄	元山隆雄
生活指導	古岡 清	山本満茂	山本満茂	武林建一	多田 満	多田 満	多田 満	吉岡増夫	中西武夫	馬々脇敏子
文化		古岡隆子	入江久子	三宅弘子	谷川美穂	小池勝次	山本恵美子	山本恵美子	樋口弘子	福中栄子
保健	川出敬一	川出充子	金森多恵子	西田厚子	竹田津鎮江	居嶋知子	大江嘉代子	矢富和子	西 純子	山本よし子
1年		土井スエ子	内本八重子	榎本寿美子	原田千代子	谷本彦一	大橋光子	三好節子	家元清子	小谷八重子
2年		赤部アヤ子	辻 伸一	真銅貞代	榎本寿美子	原田千代子	阪木葉子	大橋光子	加世堂キミ子	家元清子
3年			赤部アヤ子	金森多恵子	真銅貞代	榎本寿美子	原田千代子	阪木葉子	大杉静子	加世堂キミ子

◇年間の主なPTA事業(昭和57年度)

57年

4月8日	PTA入会式・会長選出委員会	30日	総会 芸能鑑賞会	23日	第7ブロックPTA協議会 総会
18日	「PTAだより」29号発行	7月3日	PTA保健委員会	29日	2年PTA集会(教育課程)
23日	会長選出委員会	9日	3年PTA集会(就職説明)	11月5日	1年PTA集会
5月14日	実行委員会	9日	実行委員会	14日	PTA委員研修会
19日	府立高校PTA研究集会参加	16日	府立高校PTA協議会総会 参加	22日	府立高校PTA指導者研修会
19日	府立高校安全互助会総会参加	16日	府立高校安全互助会総会参加	26日	3年PTA学年委員会
22日	PTA定例総会	20日	PTA新聞「育友」第10号 発行	12月3日	府立高校PTA協議会総会 参加
6月4日	3年PTA集会(進学説明)	9月3日	PTA文化委員会	58年	
8日	藤高フェスティバル「体育の部」	3日	実行委員会	1月21日	実行委員会
9日	同和教育講座参加	13日	PTA保健委員会	2月18日	府立高校PTA研究集会参加
15日	PTA委員総会(全体・学年・専門委員会)	16~19日	藤高フェスティバル 「PTA作品展」準備と展示	26日	PTA新聞「育友」第11号 発行
19日	第7ブロックPTA協議会	10月10日	PTA保健委員会	26日	PTA会長選出委員会
		18日	実行委員会	3月26日	PTA会長選出委員会

校務分掌各部のあゆみ

同窓会

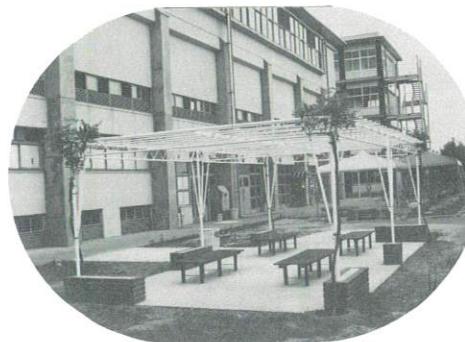
昭和51年度末、1期生の卒業にあたり、顧問を中心同窓会発足の準備にとりかかり、他校の同窓会活動を参考にまず会則案を作成した。昭和52年2月1期生によって役員、幹事決定、「藤井寺高等学校同窓会」として発足した。第1回役員会で、事業計画案・予算案が立てられ、第1回総会（8月）ですべてが承認された。これが以後の同窓会予算・事業計画の基盤となってきている。

目的

本会は、会員相互の親睦ならびに会員および母校の発展に寄与することを目的とする。（同窓会会則第2条より）



同窓会関係発行物



開校10周年記念品「藤棚」

歴代同窓会役員

役名 年度	名譽会長 (学校長)	会長	副会長	書記	会計	会計監査	庶務	名譽顧問	顧問 (職員)
52	土井 善博	森 博史①	大西寛征① 北口佳弘①	吉川博之① 森川雅夫①	大柳正章① 岡田登子①	中野智子① 山本 裕①		森田 敏夫 山本 義一 辻 本義一 (2代PTA会長) 広嶋昭三郎 (3代PTA会長)	51年度結成準備 寺本勉・渡辺謙二 渡辺謙二・石香亨 小川勇・斎藤博
53	土井 善博	森 博史①	大西寛征① 北口佳弘①	吉川博之① 森川雅夫①	大柳正章① 岡田登子①	中野智子① 山本 裕①		森田 敏夫 山本 義一 辻 本義一 (2代PTA会長) 広嶋昭三郎 (3代PTA会長)	武田 章・杉町直之 小川勇・瀬戸勝巳 斎藤博
54	土井 善博	森 博史①	大西寛征① 北口佳弘①	吉川博之① 森川雅夫①	大柳正章① 岡田登子①	中野智子① 山本 裕①		森田 敏夫 山本 義一 辻 本義一 高島弘章・田中靖二 小川勇・瀬戸勝巳 南 武夫・斎藤博	高島弘章・田中靖二 小川勇・瀬戸勝巳 南 武夫・斎藤博
55	山田 忠雄	森 博史①	大西寛征① 北口佳弘①	吉川博之① 森川雅夫①	大柳正章① 竹沢照美②	中野智子① 若林和博②		森田 敏夫 山本 義一 辻 本義一 高島弘章・富賀肇 小川勇・浅野とも子 森井久夫・井上悦男	高島弘章・富賀肇 小川勇・浅野とも子 森井久夫・井上悦男
56	山田 忠雄	若林和博②	大西寛征① 北口佳弘①	吉川博之① 北浦智代子③	大柳正章① 竹沢照美②	中野智子① 橋本勝司④		森田 敏夫 辻 本肇 (4代PTA会長) 森 博史 (初代同窓会長)	小川勇・寺本勉 富賀肇・瀬戸勝巳 井上悦男
57	山田 忠雄	若林和博②	大西寛征① 池田勝彦②	吉川博之① 竹沢照美②	大柳正章① 北浦智代子③	橋本勝司④ 田部保夫⑤		森田 敏夫 森 博史 高田 昌亮 (5代PTA会長)	小川勇・寺本勉 富賀肇・瀬戸勝巳 井上悦男
58	市橋平三郎	若林和博②	吉川博之① 池田勝彦②	北浦智代子③ 田中 浩③ 鬼追 忍④	竹沢照美② 稻垣 勝② 曾我友香⑥	橋本勝司④ 辻 浩一⑥	大杉茂之⑦ 谷口彰紀⑦ 林田辰巳⑦ 内本京子⑦ 坂下京子⑦	森田 敏夫 森 博史 山田 忠雄 (3代校長) 杉 本邦男 (6代PTA会長)	寺本勉・富賀肇 阿形恒秀・瀬戸勝巳 井上悦男

(○内の数字は各期を表わす)

校務分掌各部のあゆみ

◇主な同窓会事業

●昭和52年度～昭和58年度

- 役員・幹事（年5～10回）
- 総会（定例毎年1回、8月）
- 各期懇親会（8月）
- 各期名簿発行（8月）
- 会報発行（53年創刊号、54年2号、55年3号、58年記念特集号）

●開校10周年記念事業（昭和58年度）

- 記念植樹「藤棚」（校内食堂前）
- 記念品「コーヒーカップ」（教職員へ）
- 同窓会報「特集号」発行（8月）
- 記念式典及懇親会（1～7期生）（11日）

同和推進委員会

I 昭和49年度～52年度

新設校としての出発の時期においては、生徒の問題行動が多発したが、それらの生徒に対する日々の、きめ細かい教育実践が、そのまま同和教育的視点を内包していたと思われる。この時期に、教職員研修では、松原三中の交流・差別の現実から学ぶ（49年度）、部落史の学習（49・50年度）によって基礎的学習を始める一方、生徒に対しては意識調査を実施（50年度）し、生徒の実態把握に努め本校同和教育の実践を検討し始めた。51年度には、初めての卒業生を送り出すにあたり、「就職差別・統一用紙の意義」を研修し、3年生のLHRを実施した。以後、3年では進路と関連させての同和HRのスタイルが定着した。52年度には、府下での差別言動の実態や指導をめぐって教職員研修を行ない、鶴見橋中学の先生を講師として招聘し同校の同和教育実践についても学んだ。また、在日朝鮮人問題についての研修も行なった。この間、学習到達度の低い生徒に対する指導法に関して討論と実践が継続された。こうした取り組みを通して52年頃には、同和教育に対する教職員の共通理解が出来上って来たと言える。

II 昭和53年度～現在

この頃より、1年「身近な人権問題から考

える」、2年「学級集団づくりと人権学習」をメインテーマとしてLHRを実施し、その指導にあたって教職員も研修を深めるというスタイルが定着し始めた。（55年度いじめっ子・いじめられっ子の問題、56・57年度障害者問題、57年度国際化社会と在日外国人問題）さらに、年々変化する生徒の意識に対応できるよう意識調査を実施し、同和地区生徒、外国籍生徒の卒業後の進路保障についても追跡調査を行なう等指導の充実をはかっている。
III 本校の同和教育は、国及び府の同対審答申、大阪府同和教育基本方針に基きつつ、以上の推移を踏まえて、①生活全般の中から差別を許さない人権尊重の態度・精神をもった生徒を育成する。②被差別・困難状況下の生徒に対し、教職員相互の協力を背景に、担任を中心としたきめ細かい指導を展開し、高卒としての力を身につけさせる方向で、今後も一層の充実を期している。

食堂委員会

食堂委員会は、職員・生徒会・PTAの代表によって構成され、業者との値段交渉、利用に関する諸問題を検討してきた。利用者の割に食堂収容席が少ないのが難点。57年度卒業生から屋外テントが寄贈され、利用者も多く、好評である。

食堂献立値段のうつりかわり

献	立	昭和50年9月	昭和54年4月	昭和57年4月～
ご 飯 類	定食	200円	230円	250円
	カツカレー	200円	230円	250円
	オムライス	200円	230円	250円
	カツ丼	200円	230円	250円
	弁当	200円	230円	250円
	カレーライス	150円	180円	200円
	やきめし	150円	180円	200円
め ん 類	玉子丼	150円	180円	200円
	ライス	60円	70円	80円
	天ぷらうどん	100円	120円	130円
	きつねうどん	100円	120円	130円
	カレーうどん	100円	120円	130円
飲 物	ラーメン	100円	120円	130円
	焼きそば		200円	200円
	冷めん		230円	250円
	ジュース	50円	60円	60円
その他	牛乳	50円	60円	60円
	パン	50～80円	50～80円	70～100円

思い出の学校行事

新入生宿泊研修

第1回（第3期生）は昭和51年4月に実施。入学もない新入生が、一刻も早く学校生活の理解を深め、円滑に高校生活をスタートできるように、生徒指導部・学年の協力により2泊3日の日程で実施したものである。

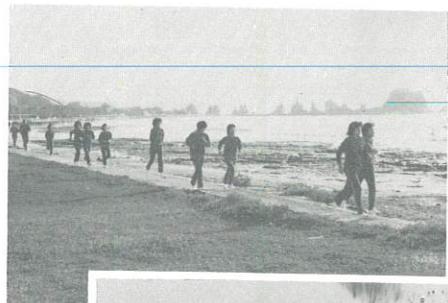
◎主な内容

集団訓練・野外活動・喫煙防止映画・生徒指導部・進路指導部・教務部などのガイダンス・同和問題・親睦のためのレクリエーション・学校行事の紹介など。
ロングホームルーム・学習指導……（第3回以後から重点に置く）

◎実施場所

昭和51年度（第3期生）～昭和54年度（第6期生）……和歌山県串本町「ホテル浦島」
昭和55年度（第7期生）～昭和57年度（第9期生）……三重県鈴鹿市鈴鹿サーキット
内ホンダ研修センター

昭和58年度より、過去7回の反省の上に一応の目的を達成したため、発展的解消の形で中止となる。



朝のランニング
ミーティング



串本
(昭51～昭54)



鈴鹿
(昭55～昭57)

- 昭和52年5月 藤井寺市民総合会館
映画鑑賞「チップス先生さようなら」
昭和52年11月 藤井寺市民総合会館
演劇鑑賞「狐とぶどう」京芸
昭和53年11月 藤井寺市民総合会館
音楽鑑賞「大阪市音楽団吹奏楽」
昭和54年11月 藤井寺市民総合会館
演劇鑑賞「大阪城の虎」関西芸術座
昭和55年5月 藤井寺市民総合会館
演劇鑑賞「熱海殺人事件」卒塔婆小町
昭和55年11月 本校体育館
狂言鑑賞「萩大名」「千鳥」

- 昭和56年11月 厚生年金ホール
歌舞伎教室「悪太郎」片岡秀太郎
昭和57年6月 藤井寺市民総合会館
演劇鑑賞「11ぴきのねこ」京芸
昭和58年5月 朝日座
文楽教室「壺坂観音靈験記」



「大阪城の虎」(関西芸術座上演、昭54.11)

芸能鑑賞の記録

- 昭和50年5月 藤井寺市民総合会館
映画鑑賞「チャップリンのキッド」「故郷」
昭和51年5月 梅田OS劇場
映画鑑賞「太陽にかける橋」

思い出の学校行事

野外活動(林間)

厳しい山登りを通じ、大自然に触れ、あわせて身体の鍛錬をするという目的で、創立2年目、昭和50年の夏第1回が白馬山麓で実施され、今日に至るまで続けられている。参加者の中からは一期生の津山篤君のように南アルプス塩見岳で山小屋の経営者になった者も出ている。

◎昭和50年7月(70名参加)

八方尾根 — 白馬岳大雪渓 — 松川での
飯ごう炊さん

◎昭和51年7月(80名参加)

新穂高 — 西穂高独標 — 中尾峰 — 上
高地

◎昭和52年7月(80名参加)

志賀高原・菅平 — 岩菅山 — 白根山 —
池めぐり

◎昭和53年7月(80名参加)

八方尾根・コースは前回通り

◎昭和54年7月(80名参加)

乗鞍岳 — 上高地 — 蝶ヶ岳 — 焼岳

◎昭和55年7月(80名参加)

新穂高 — 西穂高独標 — 鏡平

◎昭和56年7月(50名参加)

八方尾根・コースは前回と同じ

◎昭和57年7月(50名参加)

平湯 — 乗鞍岳 — 上高地 — 蝶ヶ岳

◎昭和58年7月(50名参加)

新穂高・コースは前回と同じ



▲上高地
(昭51・7)

臨海学習

夏期行事の一環としての「臨海学習」は、設立当初の昭和49年度より福井県高浜町の和田浜海水浴場を中心に実施されて来た。

俗化の波を比較的受けていなく、若狭富士を望む風光明媚な当地の美しく澄んだ水は、汚れた海を見なれた者にとって何よりも魅力である。

そんな好条件の中、「生きた水を経験し、集団生活のあり方を学びながら水泳学習をする」の目的を果すべく、単なる水泳訓練にとどまることなく、魚釣り、貝取り、キャンプファイヤー、周辺の散策と多彩なプログラムで海を知り、海との対話が図られ、例年成果をあげて来た。

しかし、最近は自分達だけで簡単に海水浴に行ける気安さからか参加者が減少の傾向にあるのは淋しい限りである。



▲遠泳(若狭和田浜、昭53・7)



▲乗鞍岳
(昭54・7)

思い出の学校行事

校内球技大会

校内球技大会は、昭和49年12月生徒体育委員会を中心に、第1回としてサッカー・バレー・ボールが実施されて以来、生徒諸君の楽しみな行事の1つである。年々盛りあがりを見せ、最近はバレー・ボール・バスケットボール・ソフトボールを中心に実施されている。



▲ 校内球技大会(昭56・6)

スキー教室

冬期行事の主役「スキー教室」は、昭和49年度第1回実施以来、各種の生徒参加行事の中でも大変人気の高い行事として、今日に至るまで続けられている。

この背景には、近年のスキーブーム、高速自動車道の発達の他、昭和53年度(4期生)より、修学旅行として「スキー研修旅行」が実施されていること等が挙げられる。また、大阪では接し得ない白銀の世界の素晴しさ、スキーの楽しさが実感として参加者的心をとらえ、それらが1年生へも行事紹介等の中で口コミとして伝えられて来たことも、大きな理由に挙げられるであろう。

◎ 実施場所

- 昭和49年～51年度 野沢温泉スキー場
- 昭和52年・53年度 ワラビ平スキー場
- 昭和54年・55年度 志賀高原横手山スキー場
- 昭和56年度 ワラビ平スキー場

長距離走大会

金剛山雪中登山・夜行軍等様々な方法が検討された耐寒訓練として、昭和50年度に学校の運動場を発着とする「校内長距離走大会」が計画・実施された。そして、運営上の諸問題(交通等)を解消するため昭和53年度より長居競技場に舞台を移し、現在では男子約10km、女子約6.5kmの距離で実施されている。

毎年2月初旬の恒例行事となったこの大会のため、体育の授業での長距離走・健康チェック等が綿密になされ、記録も徐々に向上している。例年先生方の参加も活発であり、近年のジョギングブームに加えて、58年1月末の大坂女子マラソンに、6期生の加藤ゆかりさんが完走したこと等もあり、生徒諸君の関心も高まりつつある。



長距離走大会
▼ (長居競技場、昭57・2・5)



昭和57年度(雪不足で中止) ワラビ平スキー場を予定

各スキー場ともそれぞれ特色があり、施設面では良い面があり成果はあった。しかし、ゲレンデの積雪の不安定、実施時期、授業日数等の諸問題が実施にあたっての今後の課題ともなっている。

思い出の学校行事

藤高フェスティバル

体育の部

第1回の体育大会が開催されたのは創設の年、昭和49年10月1日であった。未整備の運動場で教職員、生徒の一致協力で、昼すぎからの雨で後半を延期せざるをえなかったが、無事終了することができた。このときの呼物は、先生方をモデルにした「着換え競走」であった。

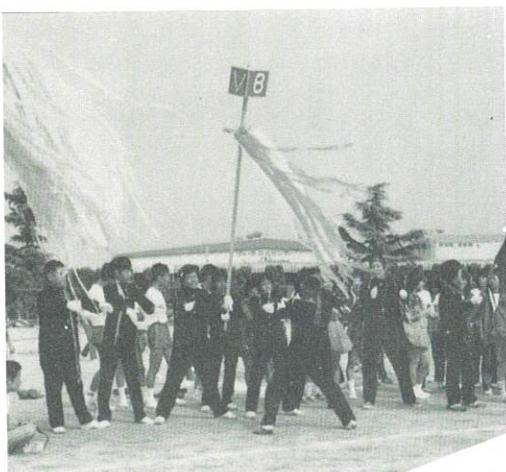
昭和52年度からは「藤高フェスティバル体育の部として文化の部と相前後して実施され

るようになり、内容的にも団体演技などを柱に充実していった。

昭和57年度からは3年生の就職試験の日程との関連、文化の部と日程が接近しているため生徒の力が分散するとの理由で、6月に実施されることになった。

この間昭和54年度からは、3年生男子による団体演技「エッサッサ」が取り入れられ定着、体育の部の顔となっている。また、生徒の自主的な運営を重視した方針のもとに体育の部は新たな発展を迎えようとしている。

応援風景（昭54・10）



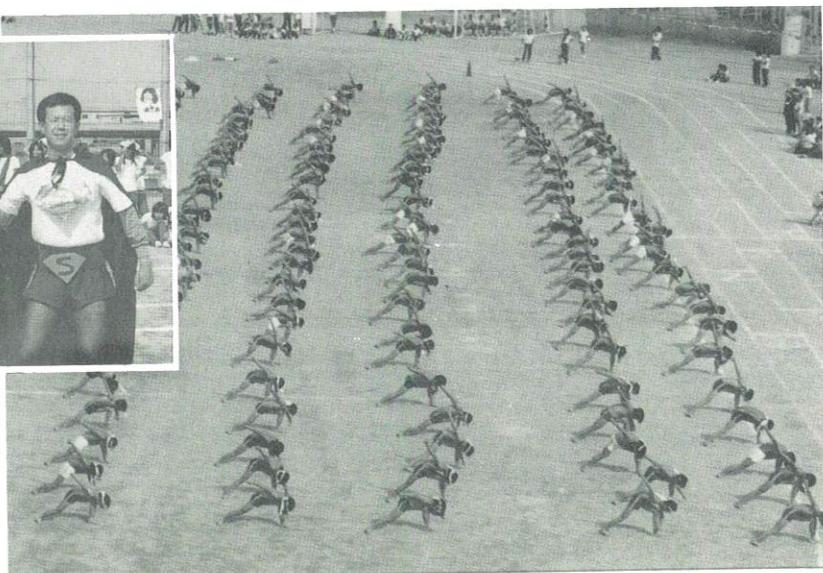
応援風景（昭54・10）



▼ 「エッサッサ」（昭54・10）



▲ 仮装競走（昭53・10）



思い出の学校行事

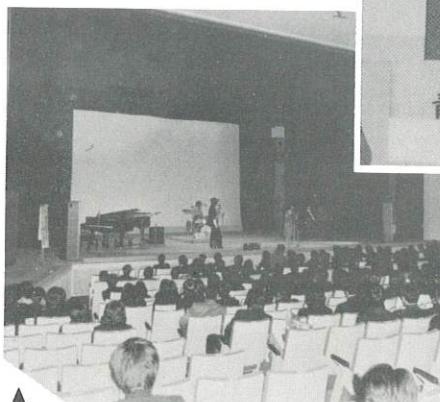
藤高フェスティバル

文化の部

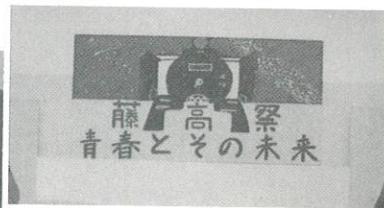
藤高フェスティバル文化の部の華やかさ、賑やかさは有名である。昭和51年度に、生徒会が生徒から名称を募って決定したのが現在の名称である。昭和49・50年度は、文化発表会という名のもとに、開催され、初年度はすべて他校並みにという教員・生徒の要望で、藤井寺市民総合会館で開催した。クラスの演劇が大ホールで、文化系クラブ・PTA展示等がホール及び会議室で催された。1学年(540名)だけの発表会であったにもかかわらず、既設校に負けるなという意気込みがみられた。体育館が完成した3年目より、テーマをかか

げ、それにそった内容で取り組んだ。2期生の提案で生徒会が協力する盆踊りもスタートした。当初は提案者たちが呼びかけても一般生徒の関心は薄く、20名程度の参加といった状態であり、現在のように盛り上がった盆踊りは想像すらできなかった。昭和52年度には背中に「祭」の文字を書いたオーソドックスなデザインの「はっぴ」を数人が着て盆踊りに登場。これが現在のはっぴブームの先駆けである。教室での展示、体育館での劇やショー、視聴覚教室での音楽会、また各種の模擬店といったスタイルが定着するようになった。

今では、約3500名の一般入場者を集めるほど、地域でも人気の高い行事となってきた。



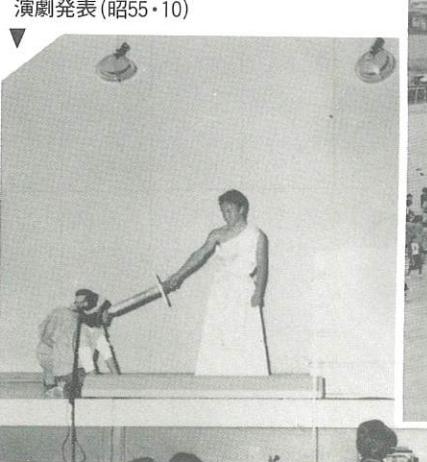
▲ 第1回文化祭(藤井寺市民総合会館、昭49・11)



▲ アーチ(昭54・9)



▲ 美術部展示室(昭54・9)



▼ 演劇発表(昭55・10)



▲ 盆踊り(昭57・9)

思い出の学校行事

修学旅行 — スキー研修旅行 —

修学旅行をどのような型で実施するかを、開校当初より課題として取り組んだ。1期生から3期生までは、コース別に各地を旅行した。1~2期生は観光と社会見学が主になつたが、3期生はHR中心の地域学習を重視した計画をたて実施。名称も「研修旅行」となつた。

1期生 (昭50. 11. 4~11. 8) 九州の旅 (2班逆回り)

A班

- ④ 新大阪駅→博多→平戸(泊)
⑤ 平戸市内見学→西海橋→長崎市内見学→島原(泊)
⑥ 島原→三角→熊本水前寺公園→瀬の本高原(泊)
⑦ 瀬の本高原→青の洞門→小倉→新大阪駅

B班

- ④ 新大阪駅→小倉→瀬の本高原(泊)
⑤ 瀬の本高原→(Aコース)牧ノ戸峠
→久住→長者原
→(Bコース)別府(地獄巡り)→高崎山
→(Cコース)竹田城跡→臼杵石仏→風連鐘乳洞
⑥ 瀬の本高原→草千里→阿蘇→熊本水前寺公園→三角→島原(泊)
⑦ 島原→長崎市内見学→西海橋→平戸(泊)
⑧ 平戸市→博多→新大阪駅

► 長崎原爆記念像 (昭50. 11)

しかし、修学旅行のあり方を検討した末、昭和54年3月4期生より新しい試みとして、当時府下でも例の少なかったスキー実習を中心とする研修旅行を実施し、現在に至っている。昭和55年3月、第5期生のスキー研修旅行に同行された土井校長の死去という悲運の出来事は、いまだ記憶に新しい。

2期生 (昭51. 10. 30~11. 2) 北陸・山陰・北九州3コースの旅



► 能登軍艦島 (昭51. 10)

A班 北陸・能登コース

- ⑩ 大阪駅→金沢→兼六公園→千里浜(泊)
⑪ 千里浜→能登金剛→總持山→輪島→狼煙→曾々木(泊)

B班 山陰コース

- ⑫ 新大阪駅→小郡→秋芳洞・秋吉台→萩(泊)
⑬ 萩→津和野→浜田→出雲大社(泊)
⑭ 出雲大社→日御崎→松江城・小泉八雲旧邸→大山寺→掛水高原(泊)

C班 北九州コース

- ⑮ 新大阪駅→小倉→青の洞門→九重高原(泊)
⑯ 九重高原→別府(地獄巡り)→高崎山→九重高原(泊)
⑰ 九重高原→豊後竹田城跡→阿蘇山→草千里→阿蘇地区(泊)
⑱ 阿蘇地区→水前寺公園→熊本→太宰府→博多→新大阪駅



思い出の学校行事

3期生

(昭53. 3. 20~3. 23)
九州3コースの旅

A班 平戸コース

- ③ 新大阪駅→博多→平戸(泊)
④ 平戸をベースに各クラス毎に学習活動
-平戸(泊)

- ⑤ 平戸→西海橋→グラバー園→長崎(泊)
⑥ 長崎→平和公園→博多→新大阪駅

B班 長崎コース

- ⑦ 新大阪駅→博多→西海橋→長崎(泊)
⑧ 長崎市内学習活動→長崎(泊)
⑨ 長崎→平和公園→雲仙→島原(泊)
⑩ 島原→三角→水前寺公園→博多→新大阪駅

C班 熊本コース

- ⑪ 新大阪駅→博多→太宰府→熊本(泊)
⑫ 熊本市内学習活動→熊本(泊)
⑬ 熊本→阿蘇→草千里→黒川温泉(泊)
⑭ 黒川温泉→青の洞門→小倉→新大阪駅

► 太宰府 (昭53・3)



▲ 横手山スキー場(昭55・2)

4期生 → 8期生

スキー研修旅行(毎年2月末~3月初)

(場所 長野県下高井郡志賀高原熊の湯横手山スキー場)
(宿舎 砥川ホテル)

行動予定表(6期生)

第1日 2月27日(金)	
7:00 30	集合ジャスコ前 出発
9:00 30	上野D.I.
12:00 30	恵那峡S.A 昼食
3:00	松本D.I.
7:00 30	砥川ホテル着 夕食
8:00	入浴 スキーウェア、ソリ くつ合わせ
10:00	点呼就寝

第2日 2月28日(土)	
6:30	起床
7:00	開校式、朝食 準備
9:00	班別による実習
11:00 30	昼食
12:00 30	班別実習
1:00	入浴
3:00 30	夕食
6:00 30	室長会議 ミーティング (1~6組)
7:00 30	演芸会 (7~12組)
8:00	点呼就寝

第3日 3月1日(日)	
7:00 30	起床 朝食 準備
9:00	班別実習
11:00 30	昼食
12:00 30	班別実習
3:00 30	入浴
5:00 30	夕食
6:00 30	室長会議 ミーティング (7~12組)
7:00 30	演芸会 (1~6組)
10:00	点呼就寝

第4日 3月2日(月)	
7:00 30	起床 朝食 準備
9:00	班別実習
11:00 30	昼食
12:00 30	班別実習
1:00	出発準備
3:00 30	夕食、閉校式 乗車出発
10:00	松本D.I.

第5日 3月3日(火)	
AM 2:00	恵那峡S.A
5:00	上野D.I.
6:00 30	ジャスコ前着 解散

こんなこともありました

待望の体育館・プール完成(昭和50年度)

待望の25m プール、体育館(2階)柔道室、剣道室、食堂(1階)が完成し、プールは夏休みから、体育館は2学期から、授業、必修クラブおよび部活動において使用された。完成を祝して7月19日にはプール開きが行なわれ初芝高校水泳部を招待し、模範泳法を披露してもらった。

また9月1日には体育館開きが行なわれ、天理大学女子バレーボール部、大阪体育大学器械体操部、初芝高校器械体操部を招待して模範試合、演技が行なわれた。



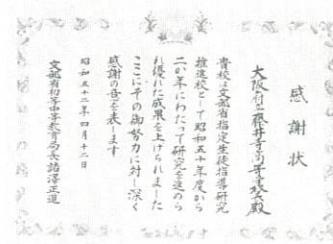
▶ 体育館(昭51・12・17)



◀ プール(昭51・12・17)

文部省指定生徒指導研究推進校となる(昭和50・51年度)

文部省の生徒指導研究の指定校となり、「無気力、無関心な生徒や問題行動に走りやすい生徒に対し、学校生活に親しみを持たせ、学

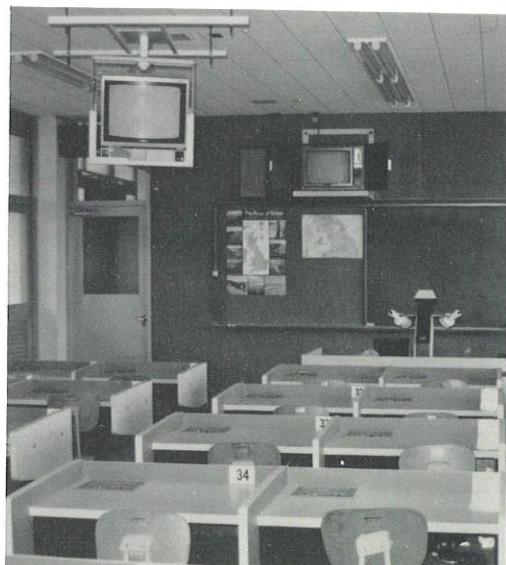


だ。

生徒指導部を中心として、教務部、進路指導部を加えたプロジェクトチームを結成し、各種の調査・検査や各教科指導・教科外教育活動・カウンセリング・進路指導等を通して実践研究を進めていくことによって、本校教育の基本路線ができ、方向づけが確立した。

大阪府教育委員会 L L 英語教育の指定校となる(昭和54・55年度)

音声面指導充実の一環としてLL教室を位置づけ、普通教室での機器利用と共に、総合的に活用。教員の研修体制を充実し、教材作成等で活発な共同研究を行い、生徒に対し、新しい角度からの動機づけが出来て、学習意欲に好影響を与えた。



▲ LL教室

習意欲を高める指導はどうにしたらよいか」の研究主題のもとに取り組んだ。

10年あれこれ

悲報！土井校長の死（昭和55年2月28日）



▲
故
土
井
善
博
校
長
追悼式（昭
55
3・26）



昭和55年2月28日、土井善博校長が5期生スキー研修旅行に付添われ、長野県の志賀高原横手山スキー場において実習見回り中、心筋こうそくで倒れられ帰らぬ人となられました。3月26日、追悼式が本校体育館で、遺族をはじめ教職員、1・2年生代表、卒業生有志、PTA、教育関係者等800人が参列して、しめやかに営まれました。52年4月府立長野高校教頭から、本校2代目校長となられた故土井校長は、スポーツマンらしい明るさと、温厚な人柄で多くの方々から親しまれました。記録用の8mmフィルムの中から、ありし日の故土井校長の姿を集めた映画が上映され、参列者の涙をさそいました。

大阪府教育委員会勤労体験学習推進校となる（昭和57年度）

高等学校学習指導要領に基づき、勤労体験学習を通して生徒に勤労の楽しさや創造の喜びなどを体得させ、望ましい勤労観と職業観を身につけさせるために、56年度より、①緑化推進活動、②環境美化活動、③社会福祉施設訪問活動を実施し、57年度は勤労体験学習研究推進校として指定をうけ、学校周辺及び城山古墳、葛城、金剛山登山の際の清掃等に取りくんだ。

故土井善博校長を偲ぶ 井上 悅男（事務長）

今はただ かたみとなりし蘇鉄株
おもいでつきず よたびめの秋

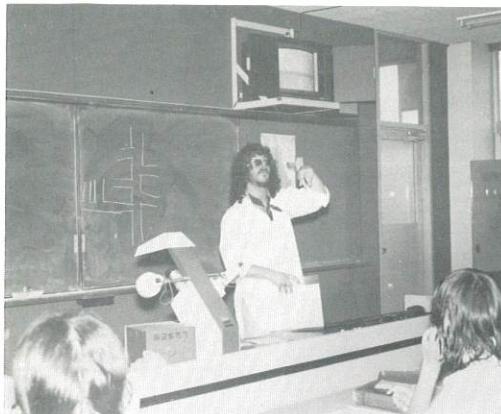
昭和55年2月27日早朝、お元気でバスの窓より手を振りつつにっこりされたお顔は今もなお鮮明にまぶたに残って居ります。お口数はすくなくて、常にあたたかくゆつたりとした学校経営を心がけておられましたので、職責の重きをこぼした時にも、「楽な気持で」と種々お心添いいただき「誰もが一度は通る道だよ、あわてずに行きなさい」と諭されたことは、とてもまねごとすら出来かねることですが困難に際して励みとして、今日までごしてまいりました。藤井寺高校隆盛の内で迎えます10周年式典、御在世ならばいかにお喜びになられたことでしょう。僅かの歳月でしたが、お教えいただいたことは数多く、あまりにも急なことでしたのでいまだに信じたくない思いもいたします。

夢なかで み声おすがた 今もなお
道さとされぬ
ありがたきこととおもう

生徒中国派遣団員として田仲基一君中国へ

「大阪府と上海市並びに江蘇省との友好交流の一環として、府内の高校生に中国を親善訪問させ、中国の高校生との交歓をはじめ、ひろく中国の自然、社会、歴史、文化に接して中国への理解を深め、友好を促進し、ひいては国際理解の学習に資する」という目的で高等学校及び養護教育諸学校（高等部）に在籍する大阪府在住の生徒100名が、中国派遣団員として昭和57年7月29日から8月4まで（7泊8日）中国へ渡った。本校からは、田仲基一君（7期生）が選ばれ、日中教育の交流と、友好親善の役割を果たした。

大阪府立高校英国人英語指導教員配置校となる（昭和57年度）



▲ 指導中のクルックス先生

「日本国とグレート・ブリテン及び北部アイルランド連合王国との間の文化協定の趣旨に基づき、日英両国民の友好親善及び相互理解の促進並びに本校英語教育の一層の充実を図るため、文部省英国人英語指導教員招致事業に基づき、府教育委員会が非常勤嘱託として採用した英国人指導教員の招請校に56年度指定され、ヴィスニスカ先生の授業をうけ更に57年度は配置校となりアンソニー・J・

府知事より環境緑化推進の功績に対し感謝状を受ける（昭和57年度）

感謝状

大阪府立藤井寺高等学校
あなたは多年、わたくして環境緑化の実践並びに運動推進に尽力されその功績は誠に顕著なものがあります
よって第3回大阪府植樹祭にあたり
ここに感謝の意を表します
昭和57年4月5日
大阪府緑化推進委員会
委員長 岸 昌

本校は、府立高校の中でも緑の多い学校であり、特に中庭の美しさは代表的なものである。校舎の周囲の樹木も年を増すごとに成長し、緑色の安らぎを感じる

学園となってきた。この数多い樹木をここまで育てあげられたのも、本校技師の方々の努力によるものである。

多年にわたっての環境緑化の実践並びに、



クルックス氏を迎えた。

クルックス氏は、アイリッシュ海に浮かぶ人口5万人の小さなマン島出身で、イギリスのリーズ大学フランス語学科を卒業し、赴任いらい松原市のアパートに住み、藤井寺高校で毎週月、火、水曜日の三日間、1日2~3時間ずつ英会話を中心に授業をするほか、英会話クラブ、英語担当教員の研修指導も担当した。

運動推進の功績によって、大阪府緑化推進委員会委員長（知事）より感謝状を受けた。



主な樹木

キョウチクトウ、メタセコイヤ、アメリカカツラ、カイヅカイブキ、ヒマラヤスギ、サンゴジュ、キンモクセイ、ツバキ、イチョウ、ヤナギ、サクラ、トベラ、サザンカ、ツツジ、サツキ、シシガシラ、ジンチョウゲ、ココス

部活動の記録と状況

部活動の記録と状況

新設校ながら教育活動は既設校並にと、部活動も乏しい施設、設備の中で初年度5月よりスタートを切り、その年の秋の近畿大会で陸上競技部がリレーで入賞するなど、その後も先生方の熱心な指導のもとに、着々とその成果をあげつつある。しかし、一方では活動上の悩みをかかえ、問題点の解消と活動活発化を目指し、昭和54年度からは「文化部合同発表会」、57年度からは「リーダース・トレーニング」が企画・実行されている。この様に施設・設備面他諸問題も多いが、部活動の充実に、より一層の努力が払われることを期待したい。

部活動の主な記録

運動系

(1. H→高等学校選手権大会、総体→高等学校総合体育大会、新人戦→高等学校新人大会、国体→国民体育大会の略称)

●水泳部

昭和51年度 大阪I.H、近畿I.H、全国I.H
国体リレーに出場 高田富貴
昭和53年度 大阪I.H、近畿I.H、全国I.Hに出場
玉野里美
昭和54年度 近畿I.H400m メドレーリレー、400m
リレー出場
(玉野、森、小田原、服部、小川)
昭和55年度 近畿I.H100m 自由型出場 金谷真美
昭和57年度 新人戦女子総合6位
南河内地区大会総合優勝

●陸上競技部

昭和49年度 大阪総体 女子400m リレー 3位
(岡山、大塚、石田、金谷)
近畿総体 女子400m リレー 5位
(岡山、大塚、石田、金谷)
昭和50年度 大阪総体 女子400m リレー 1位
(岡山、大塚、石田、金谷)
男子200m 1位 田中成一
近畿総体 男子400m 3位 田中成一
女子400m リレー出場
(岡山、大塚、石田、金谷)
昭和51年度 大阪I.H 女子槍投 6位 青山和子
近畿I.H 女子槍投出場 青山和子

昭和52年度 大阪I.H 男子400m 6位 田中成一
近畿I.H 男子400m 出場 田中成一
昭和55年度 大阪I.H 女子400m 5位 加藤ゆかり
女子800m 6位 加藤ゆかり
近畿I.H 女子400m、女子800m 出場
加藤ゆかり
昭和57年度 大阪総体 女子走高跳 3位 神崎いづみ
近畿総体 女子走高跳出場 神崎いづみ

●柔道部

昭和53年度 大阪I.H 団体3位
新人戦南地区大会 团体3位
近畿大会出場
昭和54年度 大阪I.H 団体ベスト8
新人戦南地区大会 团体3位
昭和56年度 大阪I.H南地区予選ベスト8
女子の部
(52kg以下級) 3位 波多野裕子
(48kg以下級) 3位 木寺由香
新人戦南地区大会 团体3位
大阪I.H 軽重量級3位 小松原博昭
昭和57年度 大阪I.H南地区予選 团体2位
大阪府下女子選手権
(48kg以下級) 3位 小松泰子
(52kg以下級) 3位 波多野裕子
(66kg以下級) 2位 高橋和美
大阪府下新人大会 团体ベスト8
1年の部 ベスト8
昭和58年度 大阪I.H南地区大会 团体3位

●硬式野球部

昭和58年度 春季近畿大会大阪府予選ベスト16

●軟式テニス部

(男子)

昭和52年度 大阪総体ブロック予選2位
(船石、山本和)
中央大会出場 (船石、山本和)
昭和54年度 大阪高校春季大会ブロック3位
(山口、米山)
中央大会出場 (山口、米山)
昭和56年度 大阪総体ブロック4位、府ベスト16
(飯田、井尻)
昭和57年度 大阪高校春季大会 団体ブロック2位
大阪総体ブロック2位 (日下、常藤)
中央大会出場 (日下、常藤)
(女子)
昭和54年度 大阪高校春季大会 団体ブロック2位
昭和57年度 大阪高校春季大会 团体府下ベスト16

部活動の記録と状況

●硬式テニス部

(男子)

昭和57年度 夏季大会ブロック優勝 安村和三

●男子バスケットボール部

昭和52年度 新人戦地区予選ベスト8

中央大会出場

昭和53年度 新人戦地区予選ベスト8

中央大会出場

昭和54年度 大阪総体 府下ベスト16

●女子バスケットボール部

昭和53年度 新人戦地区ベスト8、中央大会出場

昭和54年度 新人戦地区ベスト8、中央大会出場

昭和55年度 新人戦地区ベスト8、中央大会出場

昭和56年度 大阪I.H 府下ベスト16

新人戦地区ベスト8、中央大会出場

●男子バレーボール部

昭和55年度 春季大会3部優勝(2部へ昇格)

昭和56年度 夏季大会 府下ベスト16

(現在4部)

●女子バレーボール部

昭和54年度 府立高校大会ベスト16

選抜大会府予選ベスト16

昭和57年度 選抜大会府予選ベスト16

(現在2部)

●体操部

昭和51年度 春季大会 個人総合5位 藤井栄子

大阪I.H 個人総合3位 藤井栄子

種目別床優勝 藤井栄子

種目別平均台3位 藤井栄子

昭和52年度 総体 男子団体総合4位

(丹羽、岡田、中西)

1・2年生大会

種目別吊輪3位 岡田一彦

種目別跳馬2位 岡田一彦

昭和53年度 大阪I.H兼全国近畿予選

男子団体総合3位

(丹羽、岡田、中西)

個人総合6位 岡田一彦

近畿高校選手権大会出場 岡田一彦

全国選手権大会出場 岡田一彦

総体 男子団体総合2位

(丹羽、岡田、中西)

個人総合4位 岡田一彦

●サッカー部

昭和55年度 大阪冬季大会 ベスト16

昭和56年度 大阪冬季大会 ベスト16

昭和57年度 大阪冬季大会 ベスト8

昭和58年度 全国総体大阪予選 ベスト16

●ラグビー部

昭和57年度 近畿大会大阪府予選

Cブロック ベスト4

●バドミントン部

昭和53年度 大阪I.H 優勝 山田智嗣

●剣道部

昭和56年度 大阪高校剣道新人大会 男子団体8位

総体大阪府予選 女子団体8位

昭和57年度 総体大阪府予選 男子団体16位

第7学区公立高校剣道練成大会

男子団体3位、女子団体2位

女子個人優勝 中川茂美

準優勝 山田和美

昭和58年度 第7学区公立高校剣道練成大会

女子団体3位

男子個人優勝 大江幸路

3位 山田慎仁

女子個人3位 山田和美

文化系

●吹奏楽部

昭和56年度より羽曳野市民体育祭、近畿総合高校総合文化祭に出場。

昭和53年度より高鶴学園他で、積極的に校外演奏を行なっている。

●美術部

昭和51年度～現在 全大阪高校美術工芸展出品

毎年6～10名出品、推奨作品にも選ばれる

昭和53年度～現在 第7学区高校美術工芸展出品

全員出品、推奨作品にも選ばれる

昭和56年度 大阪府高校芸術文化祭出品

(干井久枝)

昭和57年度 近畿高校総合文化祭出品

(口石雅弘)

●将棋部

昭和57年度 全国高校将棋選手権大阪府大会

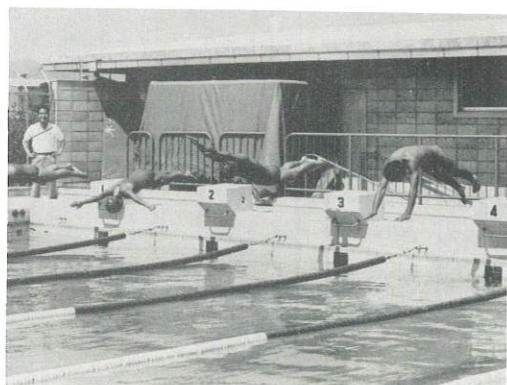
個人戦準優勝 田中 学

●演劇部

昭和54年度 大阪高校演劇コンクールH地区大会

優秀賞 「16才の終りに」

▼水泳部



部活動の記録と状況

部活動の状況(生徒会報などより)

——運動系——

柔道部

柔道部は毎日暗くなるまで練習に励んでいます。ほとんどが高校生になってはじめて柔道をする者ですが、顧問の先生の熱心な指導と厳しい練習が実って南河内地区では常に上位を占め、府の代表に選ばれた実績もあります。

剣道部

常に府下ベスト8を目標に短い時間を練習に打ち込んでいます。55年度は念願かなって、女子がひと足先にベスト8入りをしました。夏の合宿にはOBが多数訪れ、激しい練習のあとはなごやかな親睦の集いもあります。

卓球部

卓球はあくまでも個人競技であり自己の技を磨いてゆくスポーツですが、チームとしての和も並行して大切にしようとかんばっています。卓球マシーンも導入して科学的に計算された卓球を目指しています。

陸上競技部

陸上競技は本来、走り、跳び、投げるというごく自然な運動であり、またすべてのスポーツの基礎になり、人數に制限なくできる競技であります。私たちは絶え間ない練習と研究、努力を続けて、記録の向上を目指しています。

野球部

毎日放課後3時間ぐらいクラブ活動をします。夏はバッティング、ノックを中心とした技術面を、冬はランニングやウェイトトレーニングで基礎体力を養います。野球はチームプレイが大切なので、先輩とも仲よく、野球部が一つになって活動しています。勿論目標は甲子園!

ワンダーフォーゲル部

ワンダーフォーゲルとは、大自然の中を地図やコンパスを頼りに歩きさまようことです。わがクラブでは主に

▼ 陸上競技部



▼ 剣道部



▼ 体操部



六甲山系や金剛・二上山などに月に一回山行きを行う中で、精神と体力の向上を目指しています。主な山行き(合宿)白馬岳～唐松岳(55年)、白馬岳～朝日岳(56年)、妙高山・火打山(57年)、甲斐駒・仙丈(58年)

硬式庭球部

恵まれた環境でのびのびと練習できます。手軽にできるが本当にやってみるとなかなか大変なものです。世界中で注目を集めているスポーツの一つでヤングの関心も高い。若き情熱を燃やすには最良のクラブです。

軟式庭球部

軟式庭球は二人でペアを組んでゲームを行います。だれにでも出来そうですが、いざラケットを持ってボールを打つてみればとてもむずかしいスポーツです。57年度は男女とも中央大会に出場することが出来ました。

男子バレーボール部

世界のバレー界は「2mの時代」に入っています。私たちはジャンプ力で高さを克服しようと毎日練習に励んでいます。練習が終わると先輩、後輩もなく、一緒に賑やかに騒ぎながらジュースを飲んだりする楽しいクラブです。

女子バレーボール部

他のクラブに比べて、休み、時間、上下関係などすべてにきっちりしたクラブです。レシーブのようにきびしい練習も互いに大きな声を出し合って、励まし合いながら乗り越えています。今、私たちの最大の目標は2部昇格です。

男子バスケットボール部

我がバスケットボール部は、練習内容はハードですが先輩後輩とも和気あいあいとしたムードで練習をしています。高校に入ってからはじめた人達も、みんなキャプテンを中心に、大会に向けがんばっています。

女子バスケットボール部

新人戦のため一生懸命がんばったのですが、残念なが

部活動の記録と状況

ら負けました。これから練習方法は体力づくりと精神力を強めることです。遠征では、今までどちがうプレイをするため真剣にとりくんでいきたいです。

バドミントン部

体育館使用日はシャトル（羽）を打つことを中心にノックなどを行なっています。他の日は基礎体力づくりです。試合経過も良い成績になってきているので、練習の励みになっています。先輩後輩とも仲がよいです。

サッカー部

我がサッカー部は、今まで冬期大会ベスト16のかべを破る事を目標とし、トレーニングに励んできました。日頃は練習試合を重ね、夏・冬の休みには遠征試合を計画してきました。公式戦では良い成績をおさめたいです。

ラグビー部

毎日の厳しい練習。「トライ」のためなら厳しい練習などつらくない。その練習の成果を発揮する時がくる。「15人は1人のために、1人は15人のために」我が部員は「トライ」を目標に個々結ばれている。

男子ハンドボール部

公式戦においていつも3回戦を目標にがんばってきました。練習内容は充実し、夏の合宿で実力をアップすることができました。部員が少ないので、部員数を増やし公式戦では良い成績を得られるようがんばりたいです。

女子ハンドボール部

本年度の目標は『2回戦を突破して勝ち進むこと』です。のためにトレーニングをはじめとして、毎日部員たちで工夫して、持久力のあるねばり強いチームへと練習するよう努力しています。

女子ソフトボール部

私たちの目標は、公式戦で大阪府下ベスト16に入ることです。この厚い壁を破ろうと力を合わせて取りこんでいます。9人が1つとなるチームワークがとても大切なやりがいのあるスポーツです。

▼ 女子バスケットボール部



▼ バレーボール部



▼ 茶道部



水泳部

我々水泳部は『努力』をモットーに練習に励んでいます。夏は1日1万メートルを目標に泳ぎ、冬はシーズンに向けて基礎体力強化のための陸上トレーニングや室内プールの練習を行っています。

体操部

55年2学期より56年の間活動を止めていたが、現在部活動として復活。58年は5名の部員で活動中。先輩の団体大阪府2位という活躍にはずかしくないような戦績をあげるべくがんばっています。

—— 文 化 系 ——

演劇部

毎日の練習内容は基礎トレ・发声が主で、台本読みやエチュード等です。発表会は毎年5回ありますが、57年度は新入生歓迎会で3人劇に、合同発表会で男役に、文化祭でスリラー、コンクールでは風刺劇に挑戦しました。

吹奏楽部

クラブデモから一年間の活動が始まり、合同発表会、体育祭、文化祭と校内で活躍すると同時に、羽曳野市民運動会・高鷲学園での演奏、近畿高校総合文化祭にも参加し、毎日実力をつけています。

写真部

本校創立の年に生まれた伝統ある部です。3年目に全国高校写真コンクールで学校賞を獲得。大阪府コンクールでは知事賞も受けています。月一度の撮影会、校内月例展を実施するなどして技術の向上を目指しています。

放送部

日常の活動は昼の放送と下校放送が中心で、その他文化祭、体育祭、合同発表会にも参加しています。昼の放送は好評で、20分間の番組の中に連絡放送を入れながら季節の話題を盛り込み、音楽を流し、昼のオアシスになっています。

部活動の記録と状況

美術部

全大阪高校美術工芸展、7学区高校美術工芸展等に毎年出品し、過去金賞、他校推選等を獲得。部員数は余り多くないが、個人個人実力をつけており、日夜創作活動に燃えています。

漫画研究部

毎年発行している機関誌「ぼつ」は好評で技術、内容とも年々向上している。文化祭ではアニメーションの製作も試み、意気が上がっている。女子が中心ですが、男子顔負けの筆のタッチで頑張っています。

地歴部

4月の古墳の基礎知識の勉強から活動が始まり、合同発表会、文化祭で作品を発表しています。過去「瓦の拓本」「埴輪製作」「地形模型」等を発表。地味ではありますがあくまで毎日根気強く努力しています。

フォークソング部

毎年文化祭・合同発表会に出演し、日頃の練習成果を発表しています。その他合宿、他校との交流会、ミニコンサートを積極的に実施し、若さあふれた演奏ができるよう努力しています。

英文タイプ部

週に3~4日が活動日で、地道に練習に励んでいる。タイプライターの台数も増え活動も徐々に盛り上がり、文化祭、合同発表会には毎年ユニークな作品を出品して好評を得ています。

新聞部

人が集まるところには自然と何かがおこる。そしてニュースが生まれる。新しいエッセンスを先取りして広く個性的に活動しています。生徒会関係の広報を担当すると共に毎月1回のペースで新聞を発行しています。

茶道部

一通りのお手前の練習からより深い茶の心得を身につけるように、ささやかな動きにも気をくばり、心のこもった、ゆったりとしたお手前を目標に頑張っています。文化祭ではお茶会を開き心休まる場所になっています。

—— 同好会・サークル ——

現代音楽研究同好会

毎日十数人のものが音楽教室の個人練習室で恵まれた環境の下で、ロック、ブルースなどを中心に練習にはげんでいます。発表の機会は文化祭をはじめ文化部合同発表会など年に3回ほどあり、毎回観客と一緒に熱いステージが展開されています。

書道同好会

昭和54年に来住先生の指導の下に創設されました。毎年10人程度のものが活動しています。書道の心、書の歴史を大切に古いものから新しいものまで書の心を求めています。文化祭、文化部合同発表会を中心に作品を発表、また展覧会を見に行くなどの活動を行っています。

華道同好会

週1回、必修クラブの時間にひき続き化学講議室で活動しています。橋本澄子先生の指導の下に、花に親しみ技術を高め、免状をいただけるようがんばっています。会員は10名程度です。

料理研究会

昭和58年度の部員は、3年生を中心に15人で、月1回のミーティング、実習を行っています。相互に得意な料理を教えあうとともに、協力分担の精神をやしなうようとされています。冷し中華、クッキー、コーヒーゼリーなどをつくり、食べ、おしゃべりをして楽しい活動を行っています。

武道研究会

少林寺拳法三段の仲谷先生の指導であらゆる格闘技を極めることを目的に活動していますが、中心は、空手とボクシングです。練習内容は、基本げい古、シャドースバーリングとランニング、柔軟体操、ウエートトレーニングにはげんでいます。試合などは行っていません。

生物同好会

会員数は、多くありませんが、機関誌「ナチュラリスト」を発行するなど着実に活動をしました。主な活動としては次のものがあげられます。仲哀天皇陵の水鳥調査、昆陽池の水鳥調査、大和川の植生調査。

マイコン同好会

51年にプログラム電卓でプログラム作製の練習から活動がはじまりました。53年頃から本格的な活動となり、最近では、マイコンを使用したプログラムの製作を行っており、各種ゲーム、星占いなどのプログラムができます。会員は、58年で6名。

ボランティア

57年の7月より自主的な活動を通じ社会に貢献することを目的に活動を開始。主な活動内容は、高鷲学園での月2回の割合での活動（子供の遊び相手として）、藤井寺養護学校との交流などがあります。58年の会員5名。

囲碁・将棋同好会

56年に創立。現在は将棋を中心活動。会員は5人。57年には、高校選手権、高校N H K杯の各大会に参加、N H K杯では個人で大阪府準優勝。

資料

入学者状況

卒業生記念品一覧

年度	定員	志願者			合格者			合格率			学級数	七期生	六期生	五期生	四期生	三期生	二期生	一期生	期
		男	女	計	男	女	計	男	女	計									
年度 49	名 540	名 301	名 251	名 552	名 295	名 245	名 540	% 98.0	% 97.5	% 97.8	クラス 12	昭 58 ・ 2	昭 57 ・ 2	昭 56 ・ 2	昭 55 ・ 2	昭 54 ・ 2	昭 53 ・ 2	昭 52 ・ 2	卒業年月
50	540	358	311	669	292	248	540	81.6	79.7	80.7	12								
51	540	359	329	688	275	265	540	76.6	80.5	78.5	12								
52	552	297	315	616	276	276	552	92.9	86.5	89.6	12								
53	564	267	309	576	267	297	564	100.0	96.1	97.9	12								
54	564	327	346	673	276	288	564	84.4	83.2	83.8	12								
55	564	320	328	648	276	288	564	86.8	87.8	87.0	12								
56	564	335	348	683	276	288	564	82.4	82.8	82.6	12								
57	517	266	302	568	248	269	517	93.2	89.1	91.0	11								
58	564	310	355	665	276	288	564	89.0	81.1	84.8	12								

利用交通機関

通学所要時間

交通機関 年度	近 鉄	南 海	バ ス	地 下 鉄	国 鉄		自 転 車	徒 歩 の み	年 度
					環 状 線	その 他			
年度 49	名 256	名 9	名 50	名 15	名 8	名 15	名 249	名 0	
50	521	28	112	39	25	55	452	0	
51	708	98	114	52	45	88	772	122	
52	712	29	73	50	38	89	949	0	
53	668	26	52	36	22	75	967	33	
54	638	22	40	24	14	60	1215	57	
55	508	16	21	23	11	44	1346	39	
56	435	6	14	32	6	31	1387	37	
57	341	1	9	16	2	29	1411	26	
58	270	2	10	7	0	12	1443	25	

所要時間 年度	10 分 以 内	20 分 以 内	30 分 以 内	40 分 以 内	50 分 以 内	1 時 間 以 内	1.5 時 間 以 内	1.5 時 間 以 上
	年 度	名	名	名	名	名	名	名
年度 49	25	128	93	87	65	74	67	1
50	25	247	90	226	65	273	143	5
51	62	451	298	165	213	240	172	3
52	73	428	293	196	229	263	129	5
53	73	373	382	210	328	177	89	1
54	77	392	429	219	322	154	69	4
55	105	467	438	244	234	139	39	4
56	79	530	500	205	227	96	35	0
57	95	573	515	203	160	57	32	4
58	116	609	548	181	134	42	10	1

資料

部活動・同好会・サークル活動顧問

◆運動系

年 度 名 称	49	50	51	52	53	54	55	56	57	58	現 況
柔道	武田 川上	武田 富山	武田 富山	武田 山上	武田 富川	武田 富山	武田 富山	武田 富山	武田 富山	武田 富山	部
剣道	辰巳 山田慶	辰巳 井上 山田慶	山田慶	小川勇	小川勇 山田慶	小川勇 矢野	小川勇 田中靖	小川勇 村上広	小川勇 渡辺和	小川勇 光田 小田	
卓球	植野 中沢	植野 中沢	植野 村上広 原蘭	村上広	山田忠 辰巳	山田忠	古田 筒井	古田 筒井	古田 筒井	古田 筒井	
陸上競技	青谷 黒青	木谷 木青	木谷 黒木	黒木	黒木	黒木	黒木 赤塚	黒木塚	黒木塚	黒木塚	
硬式野球	田中道	武田 田中道	田中道	武田	山内	山内	山田忠 田中道	山田忠 田中道	山田忠 岡本耕	山田忠 深谷	山田忠 深谷
軟式テニス	南武 清	南武 清	南武 長谷川	南武	南武	南武 福西	福西	福西 板倉	福西 板倉	福西 板倉	西所倉
硬式テニス	南武 清	南武 清末	南武 広末	西崎	西崎 山本泰	西崎 山本泰	西崎 山本泰	西崎 山本泰	西崎 山本泰	西崎 山本泰	林本泰 岡本泰 西
男子バレーボール	山田博	山田博 小松	山田博 前田昭	福西	福西	福西	谷口	谷口	谷口	谷口	谷口
女子バレーボール	杉本	石川	石川 前田美	菊田	菊田	菊田	菊田	菊田	菊田	菊田	菊田 伊賀崎
男子バスケットボール	青谷	青谷	青谷 西崎	青谷	矢野	谷口	青谷	青谷	青谷	青谷	青谷 光田
女子バスケットボール	川上	青谷	青谷	青谷	青谷 長谷川	青谷	青谷	青谷	青谷	青谷	青谷 谷口
バドミントン	松浦	松浦 板倉	松浦 山本泰	松浦	松浦 伊賀崎	松浦	村上寛 川上	村上寛 松浦	村上寛 松藤	村上寛 松浦	
サッカー	山内	山内	山内 南	南昭	南昭	南昭	南昭	南昭	南昭	南昭	南昭
ラグビー	山内	朝山	小川宏	小川宏 松下	小川宏 松下	小川宏 松下	松筒	松筒	松下	松下	松下 本松
男子ハンドボール	井上	釜ヶ谷	渡辺謙	山内	長谷川	橋本章	橋本章 仲谷	橋本章 仲谷	岡本耕	阿形	阿形 山田慶
女子ハンドボール	釜谷	釜ヶ谷	松井垣	山内	長谷川	上笛	岸本 岡本貞	香川 本	岸本 黒木	岸本 黒木	
女子ソフトボール		小川宏 山本泰	小川宏 堀本玲田 八	関本	中川	中川	中川 松本	中川 松本	中川 松本	森井 渡辺和	
水泳	富賀	国分 石香	国分 石香	国分	国分	国分	国分	国分	国分	国分	山田博 山本泰
ワンダーフォーゲル	平山	平山 来住	平山 来住	平山	平山 来住	来住	来住 早川	平山 早川	平山 早川	平山 早川	平山 早川
体操	武田	玉井	玉井	玉井	玉井	玉井			玉井	玉井	
武道同好会		仲谷	仲谷	仲谷	仲谷	仲谷	仲谷	仲谷	仲辰 谷巳	仲辰 谷巳	同好会
軟式野球				筒井							
バトン	板倉										
男子ソフトボール		船松	勢浦	船勢							活動なし

◆文化系

年 度 名 称	49	50	51	52	53	54	55	56	57	58	現 況
演 剧	辻 達	辻 達	辻 香 川	辻 香 川	辻 香 川	辻 香 川	渡 辺 和	香 川 渡	香 川 渡	香 川 渡	藤 本
写 真	森 井 森 井	森 井 伊賀崎	杉 町 森 井 杉	森 町 森 井 杉	森 井 森 井	森 井 森 井	森 井 伊賀崎	森 井 森 井	森 井 森 井	森 井 森 井	
吹 奏 楽			朝 山	朝 山	朝 山 尾	朝 山 尾	朝 山 尾	朝 山 尾	朝 山 尾	朝 山 尾	
美 術		寺 本 寺 本	寺 本 長 谷 川	寺 本 寺 本	寺 本 寺 本	寺 本 寺 本	寺 本 濑	寺 本 戸	寺 本 濑	寺 本 戸	寺 本 濑
コ ー ラ ス		森 井 森 井 長 尾	森 井 森 井 長 尾	森 井 森 井 長 尾	長 尾	長 尾	矢 野 前 田 美 雨 堤	長 尾	長 尾	長 尾	雨 堤 井
英 文 タ イ ブ				小 松 小 松	瀬 戸 辻	辻	辰 巳 山 田 度	辻 山 田 度	辻 山 田 度	辻 山 田 度	
地 歴 研 究		橋 本 九	橋 本 九	畠 部		富 賀	富 賀	富 賀 平 山	富 賀 平 山	富 賀 平 山	村 上 晃
放 送			山 田 博	山 田 博	山 田 博	山 田 博	山 田 博	山 田 博 杉 町	山 田 博 杉 町	山 田 博 杉 町	
漫 画 研 究					仲 谷 仲 大 谷 屋	仲 谷 仲 谷	仲 谷 渡 辺 謙	仲 谷 渡 辺 謙	仲 谷 渡 辺 謙	仲 谷 渡 辺 謙	
茶 道				松 井		松 井	松 井 藤 本	松 井 藤 本	松 井 藤 本	松 井 藤 本	野 浅
フォークソング		川 中				西 田	矢 野 大 野 名 村	大 野 六 島	村 上 晃 前 田 美 六 島	前 田 美 六 島	別 所
新 聞							名 村	名 村 山 田 博 阿 形	名 村 山 田 博 阿 形	名 村 山 田 博 阿 形	
現 代 音 楽					中 川	中 川	中 川	中 川 田 中 道	中 川 田 中 道	中 川 田 中 道	
P E C								川 上 橋 本 章	川 上 橋 本 章	川 上 橋 本 章	
書 道							来 住	来 住 浅 末 野 広	来 住 浅 末 野 広	来 住 浅 末 野 広	
生 物							福 西	福 西	福 西	福 西	
I B C										大 野	
料 理 研 究										吉 田	
囲 碁				辰 巳							
将 棋				香 川 橋 本 章							橋 本 章 簡 井
華 道				橋 本 玲	北 村 玲 前 田 美	前 田 美	前 田 美	辻 原 蘭			大 野
ボ ラ ン テ ィ ア											赤 塚 本 房
部 落 研 究	平 山	平 山	平 山 赤 塚	赤 塚 村 上 広	赤 塚 村 上 広	赤 塚 村 上 広	赤 塚 村 上 広	赤 塚	赤 塚		
文 芸		藤 本	藤 本	名 村 荒 瀬	名 村 松 井	名 村 松 井	名 村 松 井	名 村 松 井	名 村 松 井	名 村 松 井	
箏 曲				原 蘭							
ロ ッ ク 音 楽 鑑 賞				中 川							

(次 頁 へ つ づ く)

資料

(文化系)

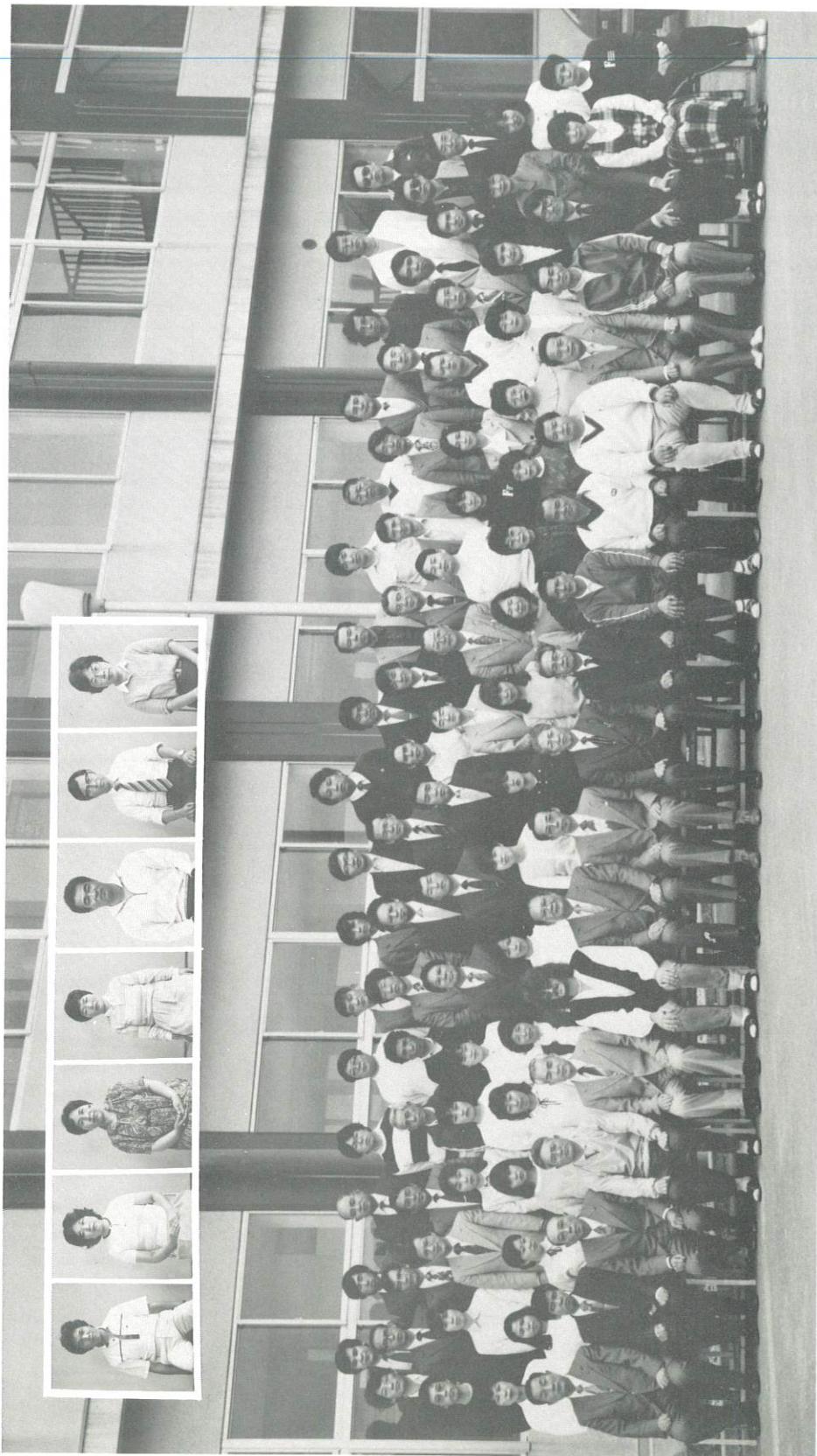
年 度 名 称	49	50	51	52	53	54	55	56	57	58	現 況
手芸	黒田	黒田	黒田	浅野 黒田	黒田 藤本						活 動 な し
園芸					石香						
映画研究				雨堤	松尾	松尾					
古典研究				深谷	本						
数学研究				松尾	松尾	川上					
松大屋				橋本	尾野						
英語研究				村田	杉町						
E S S				山本泰	山本泰	山本泰					
化学研究						山田忠					
自転車競技				石上							
科学研究					富賀						
軽音楽	佐竹	長尾	長尾	長垣	長垣						
長谷川				崎	崎						
鉄道旅行研				長	長						

担任一覧表

学年 クラス 年度	1学年												2学年												3学年														
	主任	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	主任	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	主任	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
49	橋本九	平山	辰巳	富田	山中	森慶	板倉	青谷	植辻	山内																													
50	橋本林	平山	山本博	植木	黒井	敷上	黒井	敷勢	船川	香田	松浦	八田	藤本	石香	富井	森本	板倉	田中道	朝山	烟内	小川宏	青谷	辰巳	赤坂	国塚														
51	瀬戸井	瀬戸井	玉崎	伊賀	松部	小畑	松浦	船上	船勢	長谷	石平	杉山	青谷	小川勇	香川昭	前田本	藤本早	松早	伸谷	山田慶	富山忠	来木	黒山	石川	朝香	富山	西崎	赤坂	板倉	小川宏	辰巳	国分	田中道	森井	南昭	山内			
52	石楠香	国武	南武	辻本泰	山本泰	福西	浅井	松井	畠部	田中道	辰巳	橋本章	西崎	瀬戸井	長尾町	杉深谷	伊賀崎	小松	雨提	松浦上	村上広	玉井	西岡	長小川	山田勇	名村	早川	黒木	渡辺謙	高島	山田慶	富山博	敷仲	山谷	尾				
53	山福内	福西	長谷川	松尾	松名	中藤	松本	北富	富長	仲伸	平南	朝渡	山本泰	松井	橋本章	辻本	西崎	西崎	山田	富田	早瀬	伊賀崎	長谷川	青雨	小松	深谷	玉井	村上広	松浦	山田博	山田忠	山田忠	山田忠						
54	深谷上	峡谷	青山	田忠	松山町	松西下	雨原	原矢	瀬戸	山田博	山平	高菊	瀬戸内	山島田	松尾	黒木	仲谷	福西	松浦尾	長村	藤本	中田	藤本	朝松	早山	山本泰	渡辺謙	閑本	田中靖	国分	橋本章	南昭	井賀						
55	森古井	谷口	昭野	南住	浅板	來住	筒井	上辻	堤蘭	山中	松国	富深谷	伊賀崎	杉武田	田中靖	朝山	垣玉井	青谷	村上廣	長川	香谷	仲松	高島	中川	名村	赤坂	松浦	藤本	菊木	黒木	平山								
56	香川下	松村	名井	玉井	長尾	前田美	渡辺和	山田慶	岡本貞	田中道	岸本	福西	小川勇	森井	橋本章	谷口	山本泰	米住昭	板倉田	丸野	渡辺謙	村上廣	深谷木	黒垣	山田博	村上廣	西崎	長町	杉富	山野	矢朝	山野							
57	西崎	赤大	長野	山田博	伊賀崎	富山	雨深	阿木	黒川上	岸本	福西	小川勇	森井	橋本章	谷口	山本泰	米住昭	板倉田	丸野	渡辺謙	村上廣	深谷木	黒垣	山田博	村上廣	西崎	長町	杉富	山野	矢朝	山野								
58	辰巳	早川	村上	大井	伊賀崎	富山	雨深	阿木	黒川上	岸本	福西	小川勇	森井	橋本章	谷口	山本泰	富朝	西杉	雨松	川上	山田博	阿形	伊賀崎	野山	大富	谷長	青谷	香川	青谷	前田美	松本貞	古谷	谷下	松本貞	房本	松浦仲谷			

現職員写真

(昭和58年4月撮影)



職員在籍異動

(1, 2, 3 = 学年担任、○ = 主任・部長、△ = 途中主任
 教 = 教務、生 = 生徒指導、図 = 図書観察、進 = 進路指導
 保 = 保健、総 = 総務、同 = 同和推進)

◇ 職員在籍異動表

職名	教科	氏名	在籍期間(年度)										異動先
			49	50	51	52	53	54	55	56	57	58	
校長		森田敏夫											(退職)
		土井善博											(死去)
		山田忠雄											農芸高校長
		市橋平三郎				(教頭)	(天王寺高一校長)	(東百舌鳥高)					
教頭		岡原勝											(退職)
		村田義人											北野高校長
		市村拓郎											
教語諭会		浅野とも子	生	進	進	1進	総	総	1総	2総	3総	進	
		板倉圭子	1保	2保	3保	進	進	進	1進	2進	進	進	
		仲谷早苗 (旧姓釜ヶ谷)	教	教	(金岡高)								西浦高
		森井久夫	1生	2進	3図	図	図	△図	①	②	③	図	
		香川義憲		1教	2教	教	教	教	③	①	②	③	
		藤本知代子		1生	2生	教	1教	2教	3教	総	総	3総	
		松井美智子			教	保	1保	2保	3保	進	進	進	1教
		長実			1図	2生	3生	生	2生	3生	1生	2保	
		長谷川智子			図	図	1図						(退職)
		原蘭美恵子 (旧姓西蘭)			総	2図	進	1進	2教	3教	教	教	
		深谷実			進	2図	3図	①	②	③	1教	教	
		中川一夫			(講)	生	1生	2生	3生	生	2生		門真南高
		岸本アヤ子								生	1生	2生	3生
		別所俊彦										生	
		橋本九二男	①教	①教	図								大和川高
		平山良彦	1生同	1生同	1生	図	1図	2図	3図	図	図	教	
		赤塚民三		2生	3生	進同	生同	生同	3生同	生同	1生	④	
社会		石香亨	②	③	①	(西浦高教頭 → 羽曳野高教頭)							柏原東高校長
		畠部裕	2教	1教	1図								大和川高
		雨堤敏子			保	2保	3保	1総	教	教	1進	2進	
		小川勇			②	③	総	総	総	1総	総	④	
		北村玲子 (旧姓橋本)			生	生	1教						大和川高
		早川友三			(講)	2生	3生	2教	3教	進	進	3進	1生
		村上広行				教	2保	3教	教	2教	3教	教	
		渡辺謙二				総	3総	2生	3教	生	2生	3生	1生
		関本幸子					教	2教	3教				高槻北高
		高島弘幸					3生	生	2総	3総			狭山高
		田中靖二						生	3総	2図			豊島高

職員在籍異動

職名	教科	氏名	在籍期間(年度)										異動先
			49	50	51	52	53	54	55	56	57	58	
社 会	矢野勝彦						保	1保	2図	3図			堺東高
		大野木好江					保	保	図	1図	2図		
		松本正						1図	2保	3保	2教		
		阿形恒秀					(講)			保	1保	2総	
	吉野勇二								教				長吉高
		房本進吾								保	3生		
		村上晃美								教	1教		
		光田藤一									生		
教 数 学	川上俊次		教	教	1教	2生	3保	1教	進	3進	1教	2進	
		田中道雄	1教	2教	3教	1教	2生	生	生	1教	教	教	
	中沢一		教	教	(講)	(堺第二商高)							清友高
		松浦友志	生	1生	1生	2保	3教	2進	3進	進	2進	3進	
	南武夫		教	教	教	△教	②	③					平野高教頭
		伊賀崎良太		保	1教	2進	3保	図	2総	総	1総	2総	
	大屋ひろみ (旧姓川中)		進	教	教	進	進		(久米田高)				(退職)
		薮野清	1進	進	3進	進	教	教					勝山高
	西崎実			3教	1進	2図	1生	生	3生	①	②		
		前田美恵子		保	保	保	保	保	1教	2教	3教		
	松尾好文			3生	3総	1総	2進						富田林高
		橋本章				1生	2教	3進	進	2進	3進	進	
	岡本貞美								保	1生	2生	3進	
		村上寛明							1教	2教	3教	教	
	木島淳子 (旧姓六島)									図	図		
理 諭 科	荒瀬和夫		㊱	㊱		教	教	教	教	教	図	図	
		植野敏郎	1生	1教	進								泉大津高
	富賀肇		1保	2総	3生	総	2総	3保	1総	総	総	1総	
		山田博	1生	1生	生	3図	3図	1生	生	3生	1生	2生	
	朝山浩和			2総	3図	生	2進	3進	2進	3進	保	1保	
		末広礼二		㊱	㊱	㊱	㊱	進	教	教			河南高教頭
	仲谷隆次		生	2生	3生	1生	2生	3生	生	2生	3生		
		船勢省三		1総	1総								泉北高
	前田昭吾		㊱	2総									貝塚南高
		石上知良			1生	生	教						東住吉高
	山田忠男			2生	3生	3生	1生	㊱	㊱	㊱	生		
		筒井完次				生	2生	3生	1教	教	進	1進	
	福西浩					1生	1図	2生	3生	1生	生	3教	
		松下元彦				生	1生	1生	3生	1生	教	3図	
	谷口房伸								生	1生	2生	3生	2生

職員在籍異動

職名	教科	氏 名	在籍期間(年度)										異動先		
			49	50	51	52	53	54	55	56	57	58			
教	保健体育	青 谷 耕 児	1保	2生	1保	教	3生	1生	2生	生	2生	3生			
		井 上 真 也	生	1保									東百舌鳥高		
		武 田 章	④	④	④	生	総	④	2保	保	保	保			
		菊 田 秀 子 (旧姓 石川)			保	保	保	保	2教	3教	教	総	保		
		黒 木 秀 臣	1保	2生	3保	生	2生	3生	3生	1生	生				
		国 分 俊 夫	2生	3生	1生	生	3生	1生	生	3生	1生		八尾北高		
		玉 井 規 雄	生	1生	2生	3生	図	2生	1生	2生	保				
		富 山 治 正			2生	3保	1生	保	保	3生	1生	2生			
		南 昭			3④	④	④	3生	1生	2総	総	1総			
		林 誠										1生			
論語	英語	杉 本 照 子	生										(退職)		
		長 尾 良 広			保	総	2総	1総	2総	総	1総	2図	図		
		寺 本 勉			△総	④	総	総	総	総	総	総			
		来 住 隆 一			生	2保	進	進	図	1図	2図	3図	1図		
		佐 竹 鈴 子	教	(守口高)											
		辰 巳 静 司	1教	2教	3教	1教	進	進	進	進	進	①			
		辻 礼 子	1教	総	総	1総	2総	総	1総	2保	3保	保			
		山 内 政 治	1教	2進	3進	④	①	②					平野高		
		山 田 慶 文	1教	1進	2進	3進	進	保	保	1保	2保	1総			
		小 川 宏 恭		2生	3生	④	④	④					府教委指導主事		
実習助手		奥 田 康 子 (旧姓 八田)	1生	2図	総	(門真高)									
		小 松 基 二	生	1教	2教	3教							八尾高		
		山 本 泰 史		総	生	1生	2生	3生	生	2生	3生	1生			
		杉 町 直 之			1生	2教	総	1教	2図	3図	図	2図			
		瀬 戸 勝 巳			①	②	③	1総	総	④	④	④			
		名 村 恵 史			進	同	3生	1生	2図	3図	1図	進	進		
		山 本 陽 子 (旧姓 垣崎)			教	教	教	1教	2進	3進	生	生			
		竹 谷 靖 孟						保	④	④	④	3総			
		丸 田 和 子						生	教	2保	保		羽曳野高		
		古 田 由 太 郎							1生	教	3教	生			
家庭		渡 辺 和 也							保	1生	2生	3生			
		吉 田 淑 子										保			
		清 由 美 子	生	生									(退職)		
		帶 刀 多 余 子 (旧姓 菊地)			生	生	生	図	教	図	2図	教			
養護		黒 田 シ マ 子	保	保	保	保	保	保	保	保	保	保			
		奥 田 直 美											(退職)		
		中 井 裕 美 子													
		安 達 智 子											今宮工高		

職員在籍異動

職名	教科	氏 名	在籍期間(年度)										異動先
			49	50	51	52	53	54	55	56	57	58	
実習助手		北村直子											
		樋下喜美子											(退職)
		北浦智代子											
事務長		齊藤博											高田林養護事務長
		井上悦男					(主査)						
主査		溝畠与文											(退職)
		河原昭弘											
主事		鹿屋英子											(死去)
		小谷光一											
		近藤利弘											門真南高
		望月朝子											堺養護
		中谷工											
		倉渕礼子											
		花岡弘											松原高
		松井高美											
技師		大中一久											
		秋田正夫											
		林綾子											
		西岡宗三郎											
校医		藤井清											
		西真勝											
歯科医		門口元信											
薬剤師		芝田健二											
		田中充子											

◇ 講 師

() は本校在職年度

教科	氏 名
国語	大岡加寿子(50)、川久保明美(51)、永瀬友季子(51) 和田忠明(51)、蔭山恭子(52)、対島洋子(53)
	平松綾子(53)、上笠敦子(53~58)、金定典子(54)
	谷知勢子(54)、芝田文子(54)、長田初子(55~58) 堀内佐容子(57~58)
社会	武部正夫(49)、岡山昭道(51~53) 春永幹夫(52~53)、北野吉伸(56)、松島真理(57)
	関口靖之(58)、小田昭善(58)
数学	池野雅与(52)、三浦加津子(52)、紙田春夫(53) 鳥越(逆瀬)良子(53~54)、鰐川英昭(54)
	松下千明(55)、和泉礼二(56)、金銅章好(55~58)
	斎藤仁保(56)、沼田充史(56)、乾 有子(57~58) 井阪宗充(58)
理科	土井一久(51)、竹川元章(51)、古田英文(53) 目 康夫(54)、守本隆保(53~55)、青木 隆(55~56)
	木村和男(55~58)、山下敬介(57)
保健体育	渡辺富美子(49)、吉田五十鈴(49) 玉井(竹下)祥子(51)、服部 幸(51)、山口健一(51)
	中島滋泰(51)、土井暢哉(51)、根本道世(52)
	杉野美智子(52~55)、上野訓史(54~55) 岡山智美(56~58)、松浦昭彦(56~58)

教科	氏 名
芸術	井関 啓(51~53)、佐野史子(54) 田中由喜子(56~57)
	北島 博(49)、上田敬文(52)
	島田まり(49~51)
英語	横井正昭(49)、石原 光(49)、槽谷博子(50) 前田正和(51~52)、西村光生(51)、川野道生(51) 西田幸雄(51~54)、影山惠則(53)、飯田治夫(53)
語	渡辺(阪上)伸子(53~58)、芝 郁郎(54) 村井宗行(55)、新田裕子(55~58)、岡本耕一(56) 柳本光世(56)、吉村直哉(57)、山本明司(58)
家庭	以倉淳子(50~58)、山口志都(53)、大島幸子(55) 中谷佳代(57~58)

◇ 助手及補助員

<教務事務>	長谷川橘子(50~58)
<事務>	田吹賢司(51)、橋木安世(52~53)
<家庭>	大菅由美子(53~58)、沢口許子(54~55) 細田満代(55)
<理科>	高須澄子(58)

編集後記

古き日本の歴史の舞台ともなったここ河内の地に、昭和49年4月、大阪府立第87高等学校として開校された本校も、早や創立10周年を迎えた。そこで、この一つの節目に、『藤高10年のあゆみ』を記念誌として発行する運びとなりました。

本年4月に創立10周年記念誌編集委員会が設置されて、8月上旬印刷所へ入稿するまでの5~7月のわずか3か月間の編集ではありましたが、多くの方々のご協力とご尽力を得ましてようやく完成しました。

限られた予算と紙面の中で、内容は浅くても広い範囲で掲載する方針で進めてきましたが、なにぶんにも短期間の編纂なので、記念誌としてはお粗末ではありますが、皆様方のお手許にお届けいたしますのでご高覧いただければ幸です。

なお、本誌発行にあたり、ご多忙の中各方面からご寄稿、写真・資料等のご提供をいただきありがとうございました。厚くお礼申上げます。また、紙面の都合上勝手ながら一部割愛せざるを得なかったことを残念に思うと同時に、深くお詫び申し上げます。

今後とも、本校発展のためにご支援ご協力下さいますようよろしくお願ひ申し上げます。

編集委員一同

◆創立10周年記念事業委員

市村 拓郎	赤塚 民三	板倉 圭子
井上 悅男	小川 勇	倉渕 礼子
瀬戸 勝巳	竹谷 靖孟	田中 道雄
寺本 勉	平山 良彦	森井 久夫
山田 忠男		

◆創立10周年記念誌編集委員

市村 拓郎	青谷 耕児	阿形 恒秀
香川 義憲	瀬戸 勝巳	辰巳 静司
寺本 勉	平山 良彦	深谷 実
藤本知代子	松浦 友志	村上 晃美
森井 久夫	山田 博	

発行日 昭和58年11月12日

発行 大阪府立藤井寺高等学校

〒583 大阪府藤井寺市津堂3丁目516
電話 0729-39-7750

編集者 創立10周年記念誌編集委員会

印刷所 い ず み や 印 刷
〒580 松原市三宅町2丁目13番25号
電話 0723-31-1121